
第2回 江 府 町 議 会 定 例 会 議 録 (第2日)

平成31年3月6日(水曜日)

議事日程

平成31年3月6日 午前10時開議

日程第1 町政に対する一般質問

出席議員(10名)

1番 森 田 哲 也	2番 川 端 登志一	3番 阿 部 朝 親
4番 川 上 富 夫	5番 空 場 語	6番 三 好 晋 也
7番 三 輪 英 男	8番 上 原 二 郎	9番 長 岡 邦 一
10番 川 端 雄 勇		

欠席議員(なし)

欠 員(なし)

事務局出席職員職氏名

事務局長 下 垣 吉 正

説明のため出席した者の職氏名

町長	白 石 祐 治	副町長	影 山 久 志
教育長	富 田 敦 司	総務総括課長	池 田 健 一
教育課長	川 上 良 文	庁舎・財務担当課長	奥 田 慎 也
農林産業課長	加 藤 邦 樹	福祉保健課長	生 田 志 保
建設課長	小 林 健 治	農林産業課長参事	石 原 由 美 子

午前10時00分開議

○議長(川上 富夫君) おはようございます。

本日の欠席通告はございません。全員出席でございます。

ただいまより平成31年第2回江府町議会定例会第2日目の会議を開きます。

本日の議事日程は、配付のとおりであります。

なお、日程に先立ち、傍聴の方をお願いいたしますが、傍聴規則に従い傍聴していただきますようお願いをいたします。

直ちに議事に入ります。

日程第1 町政に対する一般質問

○議長（川上 富夫君） 日程第1、町政に対する一般質問。

質問者の順序は、通告順のとおり日程に従って行います。

なお、1人につき、質問、答弁含めて60分で進行いたします。

質問者、3番、阿部朝親議員の質問を許可します。

阿部議員。

○議員（3番 阿部 朝親君） 失礼します。議長のお許しをいただきましたので、質問をさせていただきますと思います。

有害鳥獣被害防止の取り組みについてお伺いしたいと思います。有害鳥獣被害防止の取り組みにつきましては、各集落において、電気柵やワイヤーメッシュの設置の取り組みがなされており、ワイヤーメッシュにおいては、町内全域で既に15集落で取り組みがなされ、2万5,907メートル、約26キロにわたって設置され、住民がおりの中で生活しているような状況となりつつあります。これに伴います費用は、国庫補助金が946万1,969円、県補助金が11万1,680円、町の補助金が18万1,095円、地元負担金が432万7,287円との資料をいただいております。単純計算ではございますけれども、1メートル当たり543円のうち、167円が地元負担となっております。また、平成31年度には9集落が取り組みを計画をされ、計画延長は1万6,232メートルということになっております。これを先ほどの単価で計算しますと、約270万の地元負担金が発生することとなります。

しかし、まだまだイノシシや鹿の、特にイノシシの被害が多発しており、秋の収穫時期はもとより、冬期の畦畔等の掘削に伴う崩落など、多岐にわたって被害が発生しております。その被害額は平成25年度では、被害面積68アール、被害額は71万7,000円、平成29年度では、被害面積が221アール、被害額は292万8,000円との資料もいただいております。実に被害面積では3.25倍、被害額では4倍強となっております。近年には集落内にも出没することも

あり、住民に被害が発生することも心配される状況となっております。また、町内のイノシシの生息数は把握できておりませんが、イノシシの自然増加率は1.4と言われており、今後も状況は悪化していくと言わざるを得ません。

農業従事者の高齢化に伴い、ワイヤーメッシュや電気柵の設置及び管理に係る労力が大きな負担となり、取り組みが困難となりつつあり、取り組みを断念する集落もあるのではないかと心配しております。このような状況が続けば、それだけでなく高齢化による営農意欲がなくなりつつある問題を抱えている現状に加え、鳥獣被害がふえれば、営農意欲がさらに低下することとなり、ひいては耕作放棄地が増大していくのではないかと心配しているのは、私だけではないと思います。

このような農業従事者の高齢化に伴う現状及び地元負担を踏まえ、鳥獣被害防止のワイヤーメッシュ、電気柵、その他の防止対策の取り組みについて、町長の御所見をお伺いしたいと思えます。よろしく願いいたします。

○議長（川上 富夫君） 答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 阿部議員の御質問にお答えします。

有害鳥獣被害防止の取り組みについてということで、電気柵やワイヤーメッシュの関係でどういう取り組みをやってるかという話だったと思いますけれども、前段でお話のあったように、高齢化あるいは担い手不足、そういったものでなかなか設置が困難になってきたという話はよく聞きます。集落総合点検に出たときも、そういうお話が幾つかいただいたところでございます。

既に、今、議員のほうからお話でしたが、電気柵やワイヤーメッシュを設置するための補助金につきましては、国や県、町が既に制度としては設けているところでございます。さらに、それに加えて、人がいないという話でございましたら、現在は鳥取県農山村ボランティア制度というのがございまして、そちらのほうの活用もなされている集落もございまして、私としてはぜひそういった制度も御活用いただければいいのではないかなというふうに思っております。以上でございます。

○議長（川上 富夫君） 再質問があれば許可します。

3番、阿部議員。

○議員（3番 阿部 朝親君） 先ほど答弁の中にありましたが、設置に伴う能力不足の補填に大学生の協力は得られるということは承知しておりますが、設置後の管理については、高齢化等により能力不足により管理ができない状況となりつつあると考えております。管理ができなく

なれば、せっかく設置しても鳥獣被害が発生することとなり、これについては、管理を他者に委託することも必要ではないかと考えておりますが、この委託先の一つで、私が思うのに農業公社が考えられるんじゃないかと思っております。このような方向に取り組むようなお考えはないでしょうか。

○議長（川上 富夫君） 答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 設置後の管理が大変だということで、その管理を農業公社にお願いしてはどうかというお話でございますけれども、これは、農業公社がただで受けていただけるとは思っておりませんので、それと、主体はあくまでも農業公社ですので、農業公社の御意見を伺ってみたいと何とも言えないというのが私の意見でございます。以上です。

○議長（川上 富夫君） 質問許可します。

○議員（3番 阿部 朝親君） 当然、負担は必要だと思いますし、農業公社の人員体制等、いろいろあると思いますけども、そういうような方法も一つの論点ではないかと思ったりしておりますので、検討の余地があるんじゃないかと思います。よろしくお願ひしたいと思ひます。

また、今の高齢化等、既に御承知のような状況で、耕作放棄地が増加しつつありますが、やっぱりこれを最小限に取り組むためには、計画的なワイヤーメッシュや管理が必要と考えております。今の現状の取り組みとしては、集落からの要望によりまして、設置計画はなされておると思ひますけども、必要な箇所には集落からの要望がなくてもされるような方法での検討をする必要あるかと思ひますが、こういうふうな集落からの要望がない限り、ワイヤーメッシュや電柵の設置は行わないと、そういうふうなお考えでしょうか。

○議長（川上 富夫君） 答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） まず、2つありましたけれども、1つ目は、農業公社にお願いすることの検討する余地があるのかというお話でございました。幾らで受けていただけるかという話もありまして、例えば集落が御負担なさるのであれば、農業公社に話をしてみるということはやってもいいと思っております。

2点目です。ワイヤーメッシュとか電気柵について、集落の要望がなければやらないのかというお話がございましたけども、私は基本は、やはりその土地を管理されてる人がまず考えて、必要だということで声を出されるのが基本だと思っておりますので、そういう形で進めていただきたいと思ひます。以上です。

○議長（川上 富夫君） 質問許可します。

阿部議員。

○議員（3番 阿部 朝親君） そのほかにも、設置労力等がないがために設置を諦めているような集落や地域、そういうものは把握されておられますでしょうか。

○議長（川上 富夫君） 白石町長。

○町長（白石 祐治君） 具体的にどの集落ができない、できているところは聞いておりますけれども、できないところの話は私は把握しておりませんので、もし把握していれば、担当課長がお答えいたします。

○議長（川上 富夫君） 加藤農林課長。

○農林産業課長（加藤 邦樹君） 阿部議員の質問にお答えしますが、私どものほうでは把握はしておりません。あくまでも希望制になっておりますので、希望があるところに職員が出向いて、設置箇所等を協議しているというところでございます。以上です。

○議長（川上 富夫君） 質問許可します。

3番、阿部議員。

○議員（3番 阿部 朝親君） 高齢化に伴いまして労力も提供できない場合や、高齢化によりまして今後の耕作を考え、個人負担をしてまで設置をしないという方があれば、地区での取り組みができなくなることも考えられます。耕作放棄地となることが懸念されますけれども、このような地区への取り組みということも今後必要と思いますけれども、そのようなお考えはありませんでしょうか。

○議長（川上 富夫君） 答弁求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 実は後ほどの質問にも絡んでくるんですけれども、中山間地域の協定とかもございまして、集落で御相談なさって、そちらのお金を例えば使っていただくようなこともあるのかなという気がしております。

また、農山村ボランティア制度につきましては、もしちょっとどうだろうかというお話がありましたら、まず役場の担当職員のところでも電話していただければ、出かけて行って、どういうふうにやれば可能なのかというお話は恐らくできると思いますので、ぜひ一声かけていただければと思います。以上です。

○議長（川上 富夫君） 質問許可します。

阿部議員。

○議員（3番 阿部 朝親君） 長野県塩尻市の上田地区におきましては、電気柵の設置は行わず、2年間で鳥獣被害がゼロというふうなこともネット上で確認をしております。耕作地の鳥獣被害や荒廃を防ぎ、農地を守るために、それぞれの集落においてできる限りの努力をされていると思いますので、行政のほうでも調査研究並びに検討を行いながら、十分なバックアップをしていただきますようよろしくお願いをいたします。

○議長（川上 富夫君） これについて答弁ありますか。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 鳥獣被害の防止対策につきましては、実は今、日野郡の鳥獣被害対策協議会というものがございまして、いろいろ専門で、自治体ということやっておられる方もございます。そのあたりと連携しながら、先進事例のほうも調べてみたいと思います。以上でございます。

○議長（川上 富夫君） 再質問があれば許可します。

3番、阿部議員。

○議員（3番 阿部 朝親君） 今、答弁の中でありましたが、こちらに日野郡鳥獣被害防止計画というものが定められております。これが、計画策定年度が29年度です。ほかの町村は、それぞれの町が防止計画というものを立てております。そういうふうなところ、日野郡は3町でやるということやっておられますけども、十分な計画がなされておるかどうか、私もちょっと内容は把握しておりませんが、この計画を十分策定された以上は、計画に沿って策定に基づいた予算化を進め、事業を進めていただければと思ったりしておりますので、よろしくお願いいたします。

○議長（川上 富夫君） 白石町長、答弁を求めます。

○町長（白石 祐治君） 私もちょっと具体的には計画見ておりませんが、阿部議員は何をもって計画どおりになってないとおっしゃってるのかと、逆にお尋ねしてみたいところでございますが。

○議長（川上 富夫君） いや、ちょっと待ってください。それは違います。

○町長（白石 祐治君） 違いますか。

○議長（川上 富夫君） それは質問には値しませんので、今は許可できません。

○町長（白石 祐治君） わかりました。

○議長（川上 富夫君） 質問の趣旨とすれば、策定についてお願いしたいという言葉でしたので、それについてどうかということだけしか。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） ちょっと具体的な計画を今見ておりませんので何とも言えませんけれども、既に定めた計画があれば、それに従ってできる限りのことはやっていきたいと思えます。以上です。

○議長（川上 富夫君） よろしいでしょうか。

○議員（3番 阿部 朝親君） はい。

○議長（川上 富夫君） それでは、次の質問を行ってください。捕獲とジビエの取り組みについて。

○議員（3番 阿部 朝親君） 失礼します。続きまして、捕獲とジビエの取り組みについてお伺いしたいと思います。少し長くなるかと思えますけれども、農業に従事する者の1人として、また猟友会の一員で狩猟する者の1人として、関係する皆さんの声として、鳥獣被害防止の最終手段であります捕獲と、捕獲したもののジビエの取り組みについて伺いたいと思えます。

御存じと思えますけれども、ジビエとは自然の野生鳥獣の食肉を意味するフランス語で、ヨーロッパでは貴族の料理として知られているとのことですが、ここ、江府町では、町内有志によりまして江府町ジビエを考える会が設立され、活動をされつつあります。電気柵やワイヤーメッシュの設置することは鹿やイノシシを他地区へ移動させるだけであり、根本的な被害防止にはならないと思えます。これら以外の被害防止の方法として、捕獲があります。捕獲については被害防止の最終手段であり、この捕獲については早急に取り組みを強化していかなければならないと思えます。

町内における捕獲頭数は、平成25年度では、鹿においては5頭、イノシシでは68頭であり、平成30年度では、既に鹿が8頭、イノシシが127頭という資料をいただいております。これ見ますと、増加傾向にあるというふうな状況が見受けられております。この捕獲したイノシシや鹿の解体処理につきましては、捕獲した者が行っており、その肉は近所や知人、関係者に配り、処分しているのが現状であります。解体後の骨や皮、内臓の残渣は埋設処理され、また、解体処理されないものは埋設されたり、中にはそのまま放置されることもあります。全国的な食肉活用率は5%程度と言われており、そのほとんどが捨てられている現状です。捕獲するにはわなやおりを仕掛け、おりには餌づけをし、現地をほぼ毎日のように巡回し、確認する大変な作業である。その上に、捕獲したものは捕獲した者がとめ刺しし、さらには個体の解体処理、処分を行うという一連の作業に大変な手間がかかり、高齢化も伴い、困難な状況になりつつあり、これが捕獲の足かせにもなっていると思えます。

これを少しでも狩猟者の負担軽減を図るためには、解体処理、処分をする場ができ、捕獲した鹿やイノシシをスムーズに解体処理、処分されるルート、ルールができれば、捕獲した者の負担軽減が図られ、捕獲に力が入れられ、捕獲数がふえ、ひいては農業被害が軽減されることとなります。食肉として利用するにはできるだけ早く解体処理する必要があり、とめ刺ししてから1時間以内に内臓を取り出さないと、内臓のにおいが肉に移ったり、肉質が落ちると言われています。南部町の処理施設の受け入れもそのようにされていると聞いております。1時間では、交通の便の悪い場所でのとめ刺ししたものの運搬は困難であり、これに対応するために移動式の解体処理車なども開発されており、導入された自治体もあります。

全国では約100万頭とされるイノシシを、政府においては2007年に鳥獣被害防止特別措置法を制定し、2023年までに半減させる方針を打ち出しております。これら法制度を十分に活用し、捕獲に力を入れられるようにしていただきたいと思っております。

また、若桜町では、持ち込み無料と聞いておりますが、大山町、南部町においては、買い取りをしております。江府町においても、食肉加工したものの販売や骨、皮などの利活用を行い、少しでも捕獲した者に還元されることになれば、さらに捕獲に意欲が出るものと考えます。

捕獲した鹿、イノシシを有効活用するための取り組みとして、県内各方面において、既に14の解体処理施設が稼働し、ジビエとして取り組まれております。江府町では平成31年度の行財政方針で有害鳥獣ジビエ解体処理施設を設置することとなっておりますので、大いに期待しておりますが、解体処理施設の付随した施設として必ず必要と思っておりますのは、骨や皮、内臓等の残渣の焼却処理施設です。現在は解体処理した後の残った骨や皮、内臓等の残渣は埋設処分されており、不法投棄にもなりかねません。不法投棄や環境の悪化も懸念される埋設処分をするのではなく、焼却処分が必要と考えます。残渣の処分先が昨年、災害に遭い、処分量が減ったため、解体処理数が前年の25%程度に減少し、これに伴い、捕獲数も減っている町もあります。残渣の処分を確実にしておかないと、せっかくの解体処理施設ができて、100%の能力が発揮できなくなります。国の事業にも焼却施設が整備できるようになっておりますので、整備についての検討の必要があると考えます。

また、話は変わりますが、新聞にも掲載され、御存じとは思いますが、2月5日には米子のホテルにおいて、知事も出席されておりましたけれども、県主催のとっとりジビエフェアが開催され、募集人員の200名を超えるたくさんの方々が参加されておられました。私も出席をいたしました。県内の一流料理人やシェフにより、37種類に及ぶ和食、洋食が提供されておりました。鹿やイノシシの独特のにおいもなく、どの料理も大変工夫されており、どなたに食べてい

ただいても大変おいしくいただけるのではないかと感じました。

町内には3軒の旅館や国民宿舎があり、また、道の駅奥大山でも他町産のジビエの販売でなく、江府町の名物としてジビエが食事のメニューとして提供され、またおみやげとして販売されるように、町としても捕獲を推進し、新鮮な食肉などの有効的な利活用について早急に取り組みを行い、あわせて農業被害の低減を図る必要があると考えます。

また、新年度の鳥取県の予算案を見ますと、とっとりジビエ全県普及推進事業として1,889万6,000円が予算化されております。江府町としての捕獲とジビエの取り組みについて、町長の御所見をお伺いいたします。

○議長（川上 富夫君） 答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 阿部議員の御質問にお答えします。江府町のジビエの捕獲とその活用ですか、取り組みについてのお尋ねでございました。

前段、かなり長く御説明はあったんですけども、有害鳥獣の多用について、1つは、最初の質問にあったように守るほうですね、電気柵とかワイヤーメッシュで守るという方法のほかに、捕獲するという、これも大事なやり方だというふうに思っております。捕獲した後どうするかということで、ジビエの話がございました。

このジビエの件につきましては、実は平成29年の12月議会に空場議員、そして平成30年の3月議会に川端登志一議員からもお話がございまして、私は特産化を大々的に町として取り組むのであれば、やはりとれている有害鳥獣の数が1,000頭以上ぐらないととても成り立たないというのが私の考えでございまして、町で直営施設をつくるということは考えないということもそのときに申し上げたところでございます。

今回、当初予算案にジビエの解体処理施設、これを盛り込みましたのは、あくまでも有志の方、特に猟友会の方、中心になって、江府町のジビエを考える会というのをつくられて、自分たちでとにかくやるんだと、その中で特産化もしたいという、そのお気持ちを支援しようということから、今回、予算案を提出させていただいたところでございます。町が、町がというのではなく、そういったやる気のある方を支援するというのが私のスタンスでございますし、そして、その中心になって動いとられる方は、自分たちはもう高齢化していくので若手の後継者、これを育てていくというふうに明言もされましたし、実際にそういう取り組みをされております。私はそれを信じておりますので、ぜひ一緒になってそういう取り組みを応援したいというふうに考えております。

大々的にやっていくということはもう採算合いませんので、これから財政状況が非常に悪化していく中で、そういったことはちょっと難しいというふうに考えております。でも、せっかくやる気のある方を幾らか応援したいという気持ちで進めさせていただいてるところでございます。以上でございます。

○議長（川上 富夫君） 再質問ございますか。

阿部議員。

○議員（3番 阿部 朝親君） 町長のお気持ちはわかりました。私もジビエの会の一員として、支援をしていただくことにつきましては大変ありがたく思っておりますので、今後ともよろしくお願ひしたいと思います。

また同じようなことで申しわけありませんけども、お考えをお伺ひしたいことがございます。捕獲したイノシシをとめ刺しするときに、イノシシにより、けがを負われた方がたくさんおられます。中には命にかかわるようなけがをされた方もおられるということを聞いております。

捕獲者の安全を確保し、捕獲した個体を安心して処理、処分できるとめ刺しの方法、例えば電気ショックによる電気式のとめ刺し機の導入などについて、また、先ほど言いましたですけども、移動式解体車は既に高知県梶原町などで導入されております。ここではこの移動式解体車で捕獲した地域に出かけ、平成30年4月から6月の3カ月間に実は125頭、新鮮なうちに処理がなされております。また、香川県の土庄町では、ICT、情報通信技術ですけども、これを活用した捕獲システムの導入により、わなの見回り回数が、日々の見回りをしていたものが1カ月に1回程度に軽減されたことに伴い、わなの設置数が増加し、これにより捕獲率が37倍ということになっております。

江府町においても、狩猟にかかわる人の高齢化、労力の低減、人員の減少、並びに短期間の解体処理の必要から、これらの早期導入も必要ではないかと思ひます。早急に調査研究、検討していただき、このような狩猟される方の安全確保、負担軽減、人員の確保、新鮮なジビエの処理方法について、どのようなお考えをお持ちかお伺ひしたいと思います。

○議長（川上 富夫君） 答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 一つ、ICTの活用については、今思い出しましたけど、以前に森田議員からもそういう質問がございました。おりのところにカメラを仕掛けておいて、入ってきたらスマホのほうに送られてくるというふうな話もありまして、そういったこと、あるいは電気ショックでとめ刺しをする方法、それとか移動式解体車。ただ、経費がかなりかかるものもあるかと

思います。あとは、人員です。一体、誰が具体的にそれをやるのかという話もございますので、全く否定するわけではございませんけれども、できる範囲のところを研究はしてみたいと思います。ただ、これも日野郡の中で鳥獣対策の協議会がございますので、日野郡、3町一緒になって考えていくような話なのかなというふうに考えております。以上でございます。

○議長（川上 富夫君） 再質問許可します。

阿部議員。

○議員（3番 阿部 朝親君） わかりました。調査研究、なかなか難しいかと思えますけども、十分にやっていただきたいと思えます。

また、先ほど焼却施設についてお話ししましたが、御存じかとは思いますが、川筋地区の集落排水処理施設に排水と一緒に流入してきたごみ、し渣といいますけども、これを焼却できる焼却処理施設があります。設置後、試運転以降、使用はなされていないと思えます。設置後、年数がたっておりますので使用可能か不明ですけども、せっかくの施設ですので、使用について調査、検討をなされることも必要ではないかと思えますが、この点につきましてはいかがでしょうか。

○議長（川上 富夫君） 答弁求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） ただいま言われました焼却施設の関係、私もちょっと認識しておりませんでしたので、それはちょっと調べてみたいと思えます。

○議長（川上 富夫君） 再質問があれば許可します。

3番、阿部議員。

○議員（3番 阿部 朝親君） よろしくお願ひしたいと思えます。

昨日でしたですか、言われましたのは、3月の8日には道の駅奥大山におきまして、猪骨ラーメンといいますか、イノシシの骨のこういうスープのラーメンだと思いますけど、その試食会がある。ジビエの会の事務局より案内いただいておりますし、町長さんのほうからもお話がございました。どのような状況でラーメンができたかわかりませんが、商品化に取り組まれることについては大変喜ばしいことと思えます。

しかし、私の考えとしましては、先ほど言いましたように、町内には旅館も初め、国民宿舎、道の駅、そのほかにも食事ができるところもあるわけがございますから、町として関係機関を取り組み、6次産業化も考えることが必要だと考えております。これについてはどのような御見解をお持ちかお伺ひしたいと思えます。

○議長（川上 富夫君） 答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 私の基本スタンスとして、何でもかんでも町がやるというのは向きません。そうやってやろうという人がいて、やってみせる、そこにやっぱり自分もやってみようって乗っかっていく、そういうような町をつくっていきたいと思いますので、ぜひそういういい話を議員さんのほうからもそういう旅館とか伝えていただいて、じゃあ、私もやってみようというような気持ちに町を挙げてやってみていただければいいような雰囲気をつくっていきたい、私もそれに協力していきたいと思います。以上です。

○議長（川上 富夫君） 阿部議員。

○議員（3番 阿部 朝親君） わかりました。できるだけ協力はしていきたいと思いますが、町が中心ではなくして、やっぱりそこら辺の、どういうんですかね、皆さんにお声がけをしてそういうふうな会合を持てるというふうな状況をつくるには、やはり町のほうでやってもらうところも多分にあるんじゃないかと思ったりしておりますので、今後ともそこら辺の検討もお願いしたいと思っております。

いづれにしても、せっかくの施設ができるわけですから、捕獲、解体、ジビエ、販売と一連の流れがスムーズにいくように、ジビエの会を中心に、行政を初め、関係機関並びに関係者の協力によりまして、少しでも鳥獣被害がなくなるように取り組みをしていただきたいと思います。先ほども申しましたが、イノシシの自然増加率は1.4となっております。捕獲頭数を上げない限り、ふえ続けていきます。そうなると、当然、鳥獣被害もふえることとなります。耕作放棄地がふえれば、野生動物のパラダイスとなり、さらに耕作放棄地が増大するという悪循環を断ち、農地を守る最重要課題として取り組んでいただくことをお願いいたしまして、私の質問を終わらせていただきます。

○議長（川上 富夫君） これで阿部朝親議員の質問は終わります。

○議長（川上 富夫君） 続いて、質問者、2番、川端登志一議員の質問を許可します。

2番、川端登志一議員。

○議員（2番 川端登志一君） 失礼をいたします。議長さんのお許しをいただきましたので、質問を二、三させていただきます。私は農業に係る諸問題ということで質問をさせていただきたいと思っております。

近年の自然災害の発生数は年を追うごとに増しているようであります。そして、その被害も拡

大傾向にあります。昨年を例にとれば、7月豪雨、それに追い打ちをかけるような台風24号で、本流の日野川を初め、支々流に至るまで大增水となり、御承知のような被害となりました。災害復旧に当たっては、役場職員の方を初め、たくさんの人々にお世話になり、進行しているようでもあります。

しかし、私は心配でならないことがあります。それは被害を受けた人たちの心の疲労であります。特に農家の人たち、とりわけ水田耕作を中心に営農されている人々であります。町内には約400町歩の水田がありますが、この作付に必要な水はそれぞれの谷間から延々と水路によって運ばれてまいります。中山間地の宿命といえればそれまでですが、この水路の水取口は直接本流に接していますので、長い年月のうちには摩耗、老朽化して壊れやすくなっているのが現状であります。一たび崩壊してしまえば、受益農地全てがたちまち耕作不能に陥ります。復旧には多額の費用がかかります。たび重なれば、経済もですが、精神的にもダメージを受け、先ほどの阿部議員も心配しておりましたが、そのままでは就農意欲の低下により、離農、つまり耕作放棄につながりませんか。このことは当然認識されておられることと思います。つきましては、農家の人たちが安心して農業に取り組めるよう、将来の負担や不安を取り除くような方策や仕組みづくりを農家の人たちと一緒に進めるお考えはありませんか、お尋ねをいたします。よろしく願いいたします。

○議長（川上 富夫君） 答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 川端議員の御質問にお答えをいたします。

昨年、7月豪雨とか9月の台風などで、町内も結構な被害がございました。私も現地、いろいろ行かせていただきましたけども、田んぼのほうも、例えば同じ田んぼが、今回も被害受けただけども、その以前にも被害を受けられたというようなところ見させていただきました。確かにおっしゃりますように、何回もそういうことに遭っていると、もういいかげんやめようかなと思うような方もあるんじゃないかなというのは物すごくよくわかります。先ほど心の疲労って言われましたけど、まさに本当に、ただでさえ高齢化、担い手がないという状況の中で、そういった事態に出くわすと本当に心が折れてしまうような気になるということも重々わかっております。ですので、そういう中で町といたしましては、主に災害復旧の事業でございますけれども、そういったものを通じまして、極力原状復帰をできるように努めているところでございます。

御質問の趣旨は、それ以上に農家の方と一緒にしてお話し合いをして、何らかの手段を考えたらどうかということだと思います。これにつきましては、町の財政状況もございますので、で

きる範囲は限られるとは思いますが、お声を伺うということについてはやぶさかではございませんので、またそういった機会がありましたら、そういう機会を見つけて声を聞くということとはしていいんじゃないかなというふうに思っております。以上でございます。

○議長（川上 富夫君） 再質問許可します。

2番、川端登志一議員。

○議員（2番 川端登志一君） ありがとうございます。そういう機会があれば声を聞くということでもございました。このことは、また次の質問にも関連しますので、多くは触れませんが、町長みずから被災現場に出かけていただいて、視察をしていただいたということは、農家、農業の関係者といたしましても、心からお礼を申し上げたいところであります。

先ほどもいろいろな鳥獣害の被害等が出ました。例えば田んぼのあぜが抜けたとか、水路の一部が詰まったとかってというのは、割と今の段階ではそれぞれ農家の人の努力等で治めることができるわけですが、残念ながらこの町内にある山腹水路というのは設備の規模に比べて、例えば幅が5メートル、10メートルの河川に堰堤が、頭首工がこしらえてあると、そこを水をせきとめて井手に引っ張るんですけれども、見た目は小さな工事に見えるんですけれども、実はそこに行くまでの、例えば仮設の道路等が大変費用がかかって、結果的には莫大な工事費がかかるということでもあります。国、県、町も補助をしていただきますけれども、結果的にその直接の関係者の方の手出しっていうか、負担が非常に大きくなるということでありまして、声を聞いていただくということも大事なことですけれども、やはり直接的にそういう経済的な負担とか不安を軽減することを、具体的な案を示しながら将来しっかり続けていってほしいというようなことを、もし提案できるようなことがあればそういうお話もしていただきたいというふうに思いますが、いかがでしょうか。

○議長（川上 富夫君） 答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 経済的な不安の軽減ということで、何かそういう手だてがあればということでもございましたけれども、今は私どものほうでちょっと御提案できるのは、中山間の直接支払い制度というのがございます。これはよく御存じだと思います。この制度を活用されまして、5年間の計画の中で災害に備えて交付金を実際、貯蓄をされている、そんな協定もあるようございます。ですので、そういうことはあんまり御存じないところもあるかもしれませんが、できましたらそういう既存の制度を有効活用していただくということをお勧めしたいと思います。以上でございます。

○議長（川上 富夫君） 再質問許可します。

2番、川端登志一議員。

〔三輪議員 退席〕

○議員（2番 川端登志一君） 先ほどの阿部議員の回答のときにも中山間直接支払いということが出ておりました。先ほども申し上げましたように、金額に見合うようなことで、この直接支払いでちょんちょんで済めば、それでいいわけでありますけれども、そうならない場合というのが恐らくは、先ほど説明しました工事費が莫大になるということで、恐らく1回壊れれば、それを復旧するために1,000万、2,000万あるいは3,000万という金額に簡単になってしまうということを踏まえれば、この中山間直接支払いも確かに利用いたしますけれども、それ以外に、また何か方策も検討する必要があるのではないかなというふうに思いますので、そのことを再度お聞きしたいというふうに思います。

〔三輪議員 着席〕

○議長（川上 富夫君） 答弁許可します。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） かなり大規模なもので、災害によるものであれば、それがもし公共の災害復旧等でとれるものがありましたら、まずはそっちを行います。それではとれないものが実際にあって、しかも規模が大きいというものがあれば、これは恐らく江府町だけではなくて、全ての市町村、県、国全体のことだと思いますので、そういう制度要望を、実際にどんなものがあるかをちょっと把握しないと何とも言えませんけれども、その把握した上で、そちらのほうに展開していきたいというふうに思います。以上です。また、教えていただければと思います。

○議長（川上 富夫君） 再質問許可します。

川端登志一議員。

○議員（2番 川端登志一君） 制度要望ということで、そういうように発展していくのが望ましいかと思います。規模が大きくなればという話がありましたけれども、結局大きくなっても、受益者負担というのはどこまでもついていくようなふうに思っております。

それと同時に、今、町長さんが言われましたけれども、行財政方針の中にもございました農業を考える、農業の部門のところでも、奥大山プレミアム特裁米というのも非常に評判が高くなっているというような分析がございましたが、この奥大山プレミアム特裁米にしても、やはりそういう水の恩恵を受けて成り立っているわけでありますので、できれば町長さんの口から早急にそういうことを検討するというような御返答がいただければと思います。

といいますのが、この町内、江府町内には水路の取水口がどのぐらいあると御承知されとりま
すか。

○議長（川上 富夫君） 答弁求めます。

○町長（白石 祐治君） 申しわけないです。ちょっと把握しておりません。

○議長（川上 富夫君） 2番、川端登志一議員。

○議員（2番 川端登志一君） いや、意地悪クイズのようで申しわけないんですけども、実は
68カ所ございます。水路延長は約8万9,115メートルというふうに報告を受けております。
この施設がこのまま10年、20年と安泰であるという保証はどこにもないというふうに思いま
す。先ほど言いました、災害が頻繁にやってきますので。ですんで、このことにつきましても、
ゆっくり検討するというのではなくて、本当に直ちに検討するということをお願いしたいと思
います。

例えば、私も属しております、皆さんも、町内の農家の人、ほとんど入ってるんですけども、
農業共済というのがありますが、残念ながらコンクリート構造物等に関する補償というのがありま
せん。このようなことを改善をするために、我々も声を出しますけれども、できれば行政のほう
からアプローチなりをかけていただいて、少しずつの掛金で将来の大きな安心を得られるような
ことは、町長さんのほうからでも声を発していただくというようなことを早急に決断をしていた
だきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（川上 富夫君） 答弁求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 幾らでも早急にしたいと思いますが、中身をまず、こういうことがあっ
て、こういうふうにするというものをまずこしらえないと早急にできませんので、そのあたりを
ちょっと具体的にまた、担当課を交えて話をさせていただければと思います。

○議長（川上 富夫君） よろしくお願いします。

再質問許可します。

川端登志一議員。

○議員（2番 川端登志一君） 中身あるいは形が見えたらということでもございましたので、そし
て、早急に内部で調整するというご事情でもございました。

我々農家も黙って、全て町長さんにおんぶにだっこということはいたしませんので、もしそう
いうような、我々にも具体的なこういうことをしてほしいというようなことがあれば、今、早速
やってくださるということをお約束いただいたということの解釈でよろしいでしょうか。

○議長（川上 富夫君） 白石町長。

○町長（白石 祐治君） 一応、今、西部の町村会の会長でもあります。これは江府町だけの問題ではないというふうに思っておりますので、そういうふうに段階を追って、西部あるいは鳥取県町村会、そして県に上げて、また国とかというような形で、一つの問題提起として、要望といたしますか、上げていければというふうに考えております。

○議長（川上 富夫君） ありがとうございます。

この質問ですか。

○議員（2番 川端登志一君） 質問ではありません。

○議長（川上 富夫君） では、関連質問を、次に上げてるものについて、質問してもらってもいいですか。

○議員（2番 川端登志一君） じゃあ、今。

○議長（川上 富夫君） 今の質問ですか。

再々質問許可します。

○議員（2番 川端登志一君） 今の件については、ひとまず了解はさせていただきます。ありがとうございました。

○議長（川上 富夫君） それでは、続いて、関連質問があるようですので、それも質問お願いいたします。

○議員（2番 川端登志一君） 失礼をいたします。農業に係る諸問題その2でございます。

鳥取西部農協におきましては、過去数十年間にわたって組合員との情報交換の場として、集落座談会なるものを開催しております。これは年1回、決算月に行われまして、組合員のニーズの把握に役立てております。当初は農業に直接かかわる話題がほとんどでしたが、近年は減反廃止、あるいは種子法の廃止、TPP11の発行など、政局絡みの話題、質問も多くなっているとの声があります。また、さきの質問のように、被災に、災害に関連するもの、農業の将来を悲観するものなどもあるようです。この座談会も、開催方法などを含めて、転換期に来ているのではないかなというふうに思う次第であります。

そこで提案でございますが、町長は集落点検事業や語る会を通して民意の収集に努めておられますが、それに加えて、JAの座談会に職員を同行させて一緒に農家の声をじかに聞き、思いを共有して、農業を活性化するお考えはございませんか。お尋ねをいたします。よろしく願いします。

○議長（川上 富夫君） 答弁求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 川端議員の御質問にお答えします。JAさんで年に1回行われておられる集落座談会に町の職員も一緒に出向いて、農家の皆さんの声をじかに聞いて、施策に反映してはどうかというお話でございました。

以前も大きな制度改正があるようなとき、JAさんのほうから依頼があって、そういったときには出かけたようなこともあるようでございます。住民の方の声を聞き取る方法というのはいろいろあると思います。集落総合点検は一律集落に出向いて、全体をなめるようにやったわけなんですけれども、今年度でなくて、来年度ちょっと考えていますのは、若い世代の声が余り聞こえてこなかったの、その辺の子育て支援のサークルでありますとか保護者会とか、そういったところを重点にちょっと私は聞いてみたいというふうに思っていて、行財政方針のほうでも申し上げたところです。

今回のお話は恐らく今まで行った集落総合点検とそんなに大きく差はないのじゃないかなというふうに考えておりますので、職員の負担もかなりふえてまいるということも考えれば、できればそういう座談会で出た声をまずお聞かせいただいて、これ、大事な話だけん、ちょっと出てこいやみたいなきにお声がけいただけたら、そこに出向かせていただくというふうな格好をとらせていただけたらと思います。以上でございます。

○議長（川上 富夫君） 再質問許可します。

2番、川端登志一議員。

○議員（2番 川端登志一君） 今まで行いました集落座談会のデータ等も集約したものがございますので、後ほどお届けをしたいというふうに思います。

私はこの提案をいたしましたのは、やはり先ほどの質問と同じなんですけれども、農業の行く末に、経済的な負担はもちろんですけれども、不安を抱えているということでございます。町長は総合点検、1年、2年行って、実績がでございます。一千四、五十軒のうちから459名の参加をいただいたというふうにデータもあります。その中には、やはり町長さんが集落に出向いてきてくださって大変よかったというふうに思われる町民の方も多くおられると思います。やはり集落の座談会も同じくで、そういう不安を感じている人に対して、町の職員の方、町長さん来ていただければ一番いいんですけれども、やはり町が我々、農業に対して重きを置いていただいている、寄り添ってくれているということが感じられれば、就農意欲とか、そういうことにもつながっていくんじゃないかと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（川上 富夫君） 答弁求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 町が農業者の方に寄り添っていけば就農意欲も湧くのではないかというお話は、そのとおりだと思います。だから、必ず出かけていくという話と結びつくのかということになりますと、私は必ずしもそうではないのかなと思います。そのために議員さんもおられるわけで、こうやって直接声を聞かせていただいて、農業で困っておられる方の声を聞いてるということには違いないと思っております。その中で必要な施策を盛り込んでいくというようなことはやらせていただいているというふうに思っています。

ただ、必要に応じて出させていただくことをやらないと言ってるわけではありませんので、ただ、いろんな会合に職員をみんな出させてしまうと、それこそ、今、働き方改革じゃないですけども、職員も庁舎の建設なんか新しいことも、いろいろ今、いっぱいやっています。その中で、なるだけ職員にも負担かけないような方法を私はとりたいと思っていますので、そこも御配慮いただけたらと思います。以上でございます。

○議長（川上 富夫君） 再質問があれば許可します。

川端登志一議員。

○議員（2番 川端登志一君） たくさんの会に職員の方が参加すると本当に負担がふえるということでもあります。本当に確かにそうだと思います。

ただ、数字的に見させていただきますと、例えば町長さんと町民の方が語る会というようなことが行われておまして、前回までで10回開催されて、総参加数は約90人、1回当たり9人ぐらいということでございます。いろいろ町長さんの今までの会話とかこういう答弁を聞いておまして、何か非常に少人数の開催を好まれているというような感じで、大人数では何か民意が、手が挙がりにくいので、案外小さいほうがいいぞということでございます。ということ踏まえても、あるいは合併をしてやるというようなことも可能があるんじゃないかな。回数を減らして、回数だけをふやすということが、今言われたように、いいということではない。結局はいかにして民意を掌握して、それを町政に反映するかということでございますので、こちらから、何ていいますか、頼んだら行くわということではなくて、そういう機会を捉まえて積極的にここはそういうところに参加するということも、もちろん効率もですけども、そのように思いますが、いかがでしょうか。

○議長（川上 富夫君） 要望としてですね、要望としてということですよ。

○議員（2番 川端登志一君） そうです。

○議長（川上 富夫君） 白石町長、答弁ありましたら、要望ですから、お答えをお願いします。

○町長（白石 祐治君） 農業関係でいきますと、農業委員さんとの語る場にも出させていただいておりますし、あるいは再生協の関係で、農家の皆さん集まっていたところで御説明をするような場にも出させていただいています。

おっしゃいましたように、少人数を好むというのをおっしゃいましたけど、確かに少人数のほうが思ったことが結構言える、相手の方も結構言われるということがありますので、私は一方的に説明するよりも、そちらのほうの形を確かに好んでおります。本当に機会がありましたら出かけてみたいということしかちょっと今言えませんが、こういう形でさせていただけたらと思います。職員にはちょっと過度な負担はかけたくないというふうに思っております。以上です。

○議長（川上 富夫君） 再質問、戻ります。

○議員（2番 川端登志一君） ありがとうございます。もちろん私も職員の方に過度な負担をかけるつもりで言ってるわけではございませんが、そうは申しましても、町民、あるいはその中でも農業を担っている方というのは、先ほどもるる申し上げたように、彼らも大変な負担を担って営農をしているということでございます。

例えばその彼らが行っていることの重要な成果の一つとして、今、江府町は観光産業に大変力を入れていこうということですが、その観光にしても、農業の振興が、彼らの努力が観光のイメージのアップにも役立っているということがひとつ認識をしていただきたいと思います。道路沿いの農地が草ぼうぼうや荒れ果てた景色では、恐らくは江府町が奥大山を中心とした観光地というふうに胸を張って町長さんも言えないと思いますし、それを支えてるのが実際の農業を担っていくということを認識していただきたいと思います。

その上で、町長さんの認識が、今までのいろいろな議会の答弁の中で少し思うんですけれども、農業というものを江府町の中でのどんな産業として私は位置づけているのかなということもやや疑問に思っておりますので、それを払拭するためにも積極的に参加をしていただきたいというふうに思います。

そして、もう最後ですけれども、やはり少人数ということですが、参加者が同じ農業者同士ですので、本当に本音が出やすくなると思いますので、ぜひとも最後に同行参加するということをお願いをいたしまして、私の質問終わります。

○議長（川上 富夫君） ありがとうございます。

これで1番目の質問は終わります。ありがとうございます。

じゃあ、次の質問を許可します。

○議員（2番 川端登志一君） 3つ目の、最後の質問になります。平成31年度行財政方針案についてということでございます。

この方針案を見させていただきまして、白石色がよく感じられました。ぜひとも3,000人の楽しい町を実現していきたいと思えます。特に3番目の課題解決のための基本的な考え方についてや、4番目の1の31年度の特徴的な事業についての項は、非常に共感を覚えました。第一に、江府町はよいところだということに住んでいる人が子供や孫に言い続けること、また、これからの時代に立ち向かっていける子供たちを育てるため、アントレプレナーシップスクールや中学生議会を充実させる、そして、郷土愛を持たせる教育をするなど、ぜひとも力強く推進していただきたいと思えます。大人も子供もこの町はよいところだと自信を持って言える、こんなすばらしいことはありません。ただ、そのためには、その根拠となるものがないと説得力に欠けると思えます。

つきましては、町長の言う郷土愛を持たせる教育とは、具体的にいかようなものを根拠とするお考えか、また、その計画を実施する際に町内にあまたある各種事業を活用するお考えはありますか、町長の御所見を伺います。よろしく願いいたします。

○議長（川上 富夫君） 答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 川端議員の御質問にお答えします。平成31年度行財政方針の中から、郷土愛について、また、さらに教育のこと、非常に共感を覚えていただきましてありがとうございます。

実はこれ、かなり私、これから力を入れようと思っています。といいますのは、やっぱり今、全ての問題のところ江府町が抱えてるのは、担い手がない、これだと思います。やっぱり3,000人の楽しい町っていつてるのも、私が町長になるときに、いろいろ各家を回ったときに、やっぱり若い人がいなくて寂しいと、これ何とかならんだろうかっていうのが、実は原点であります。

自分も江府中までは江府中学校通ってて、学校は米子に行ったんですけども、家から通っていて、県に勤めたんですけども、最初の3年間は家から通ってました、根雨が職場でしたんで。それから何十年か離れてしまって、今、また帰ってきたということでございます。自分の小さなころに住んでいたところ、親もまだおりますし、とてもやっぱり愛着があります。

どんなふうに郷土愛を持たせる教育を考えてるかという御質問でございましたけども、やっぱりよさといいますか、誇れるもの。私はとにかく県外に出てもいろんなところで言っているのは、

江府町のキーワードは2つあると言っております、奥大山。奥大山というのは結構広くて、環境、自然のほうから水に行って、そして、そこから生まれる農産物と、そこまで流れていく、結構幅広いところが奥大山というのがあります、これが1つの切り口。

そしてもう一つが、やはり私、江尾におりますこともあるんですけども、江尾十七夜。これも何百年も続いている、しかもこの祭りのよさが本当にある。ここに住んでいた江美城主というのは物すごくいい人だったということがあります。それが、しかもその人が亡くなったことをずっとずっとしのいでやり続けてきたという、この町民性。これは本当に全国に誇れるものだと思いますので、ぜひこの2つをキーワードにして、今住んでいる子供たちにしっかりそれを持ってもらいたいというふうに思います。

実はアントレプレナーシップスクールをやったことがあって、意外に町のことを知らないということもあります。ですので、段階に応じて、保育園、小学校、中学校と上がっていくに従って、学習する内容もちょっとずつ、レベルを上げるといいますか、濃くしていくと、そういったことも必要なかなというふうに思っております。

それと、町内で推し進められた事業を活用する考えはあるのかということございました。実際、今、町内で各種工事が進んでおまして、保育園なり小学校なり、そこに見学に行ったりもしておりますし、実は江府中学校の生徒が、宮ノ谷橋でしたかね、181号の江府道路の橋があるんですけど、あの橋にプレートのような、揮毫っていうんですか、筆で書いたものを生徒が書いたと、そんなことがなされているというのを、実は先日、日野振興センター行ったときにパネルが飾ってあったので、それ見て。恐らくそれを書いた子供たちは、自分が書いた文字が地元の橋にしっかりずっとこれから未来永劫残るということが物すごく誇りになると思うんです。そういった気持ちを持っていただくような教育を、やはり江府町はすべきかなというふうに考えております。以上でございます。

○議長（川上 富夫君） 再質問許可します。

2番、川端登志一議員。

○議員（2番 川端登志一君） ありがとうございます。先ほどのお答えいただきました。その中で非常に私もうれしいなというふうに思いますのが、橋の橋名板等の揮毫を子供たちがやると、それを見た子供たちが本当にどう思うんだろうということを思って、みずからも感銘したということを言われましたので、本当に私もうれしく思いました。

しかるに、できた後にそういうことをやってそういうふうに感激をされるわけですから、恐らくはその過程を知るということであれば、もっと感銘、感激がふえるのではなかろうかと思いま

すが、町長さん、いかが思いますか。

○議長（川上 富夫君） 答弁求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 今、議員がおっしゃいましたのは、工事の様子を見ることによって、子供たちがもっと心に刻むものがあるんじゃないかというお話がありました。それは、恐らく私もそうだと思います。それは、こんなすごいことをやられているということとあわせて、そこで働いている人の姿を間近で見て、自分たちの将来をそこに重ねてみる如果能够できれば、それも一つの大きな教育のやり方だというふうに思います。

○議長（川上 富夫君） 川端登志一議員。

○議員（2番 川端登志一君） そして、私が今、建設系に限っていいと、そういう工事のものを見ると、さらに感動が増すということでございましたが、ラッキーなことに町内でそういう箇所が複数あるということ、それから、指折り数えましても、向こう10年ぐらいは本当によその町にないようなビッグイベントがめじろ押しということを思いますが、では、それを具体的に子供たちの郷土愛を持ってもらうために活用するというようなことはお考えですか。

○議長（川上 富夫君） 白石町長。

○町長（白石 祐治君） 私はぜひそういうことも活用してほしいと思いますが、具体的に考えていくのは、やはり教育委員会が考えるものだと思いますので、ちょっと教育委員会の見解も答えてほしいと思います。

○議員（2番 川端登志一君） よろしくをお願いします。

○議長（川上 富夫君） 教育委員会の答弁求めます。

教育長。

○教育長（富田 敦司君） 川端議員の御質問にお答えをいたします。

今、町内で複数そういった施設があるので活用してみたらどうかと、今後ずっとあるんだがというお話でございました。先ほど町長のほうからこういった取り組みをやっているというようなお話もさせていただきましたが、つけ加えさせていただきますと、例えば三ノ沢の堤防ですね、そこで小学生が見学をしたり、あるいは園児が見学をしたり、あるいは機械の説明を受けたりというようなこともやっておりますし、洲河崎橋のほうでもお絵かきイベントを保育園の子供たちがやったりあるいは小学校の子供たちが下安井堤防の見学をしたりというようなこともやっているとところでございます。

いろいろお話がございましたように、江府町の形が大きく変わろうとしているこの現代におい

て、その過程を子供たちが実感するというのはとても重要だ、大切だというふうに思っております。実際見た子供たちも地域に関心を持つというような子供がふえてきたというような報告もありますので、いろいろ御提案いただきましたものを引き続きしていきたいというふうに思っております。以上です。

○議長（川上 富夫君） 再質問を許可します。

川端登志一議員。

○議員（2番 川端登志一君） ありがとうございます。ぜひそれを切らさないように継続して続けていってほしいと思います。

そして、その中に、もちろん安全は留意しなければいけないと思いますが、昨年、総務経済委員会で行われました町内の行政報告の中でも、特に不可視部分を見るということは、これまた、またとないチャンスだというふうに書かせていただきました。これは、例えば橋を支える巨大な橋の根本の中身はどうなっているのかというようなこと、これは完成してからでは見ることができませんし、めったに見ることはできません。これはもちろん私たちが思いついて、さっさと行って、見ることはできませんけれども、行政ならではの働きかけによって実現する可能性がありますので、ぜひともそれも含めてお願いをしたいと思います、が、まず1点。それがやっていただけるかどうかというのが1点。

そして、今まで質問したのは、子供たち向けの質問でございます。子供たちに対してはどうかということでございますが、町長さんいわく、大人が子や孫に向けて、このまちはいいところだぞというふうに言うときに、おじいちゃん、お父ちゃん、いいところってどこって言われたときに、大人が、ええっていうふうな状況では困ると思います。それに対してはどうでしょう。

○議長（川上 富夫君） 最初の、2つありますけども、一つずつ。

白石町長、答弁求めます。

○町長（白石 祐治君） 最初の不可視部分、見えないところをつくってる過程だったら恐らく見えるから、そういうのができるようにしたらどうかという話であります。具体的な話はまた教育委員会で検討してもらわないといけないと思っています。できる方向で検討はしてみたいと思いますが、具体的には教育委員会のほうから考えてほしいと思います。

2点目ですけども、やっぱり大人がそういったよさをわかっていないといけないと私も思います。私、それ思ったのは、実は一緒の場所にいたんですけど、この前のJAの女性会の総会があったときに、会長さんが言われたです。実際に江府町回ってみた。何十年も江府町に住んどって、江府町にこんないいところがあるの知らなかったというふうにおっしゃいまして、やはり町内に

住んでる方でも意外に御存じないということがあります。

実は、これ、ちょっと話が変わるんですけど、神山町に行ったときに、バスツアーを組んで町内を回るということをやってたんです。1グループ、本当に5人から10人ぐらいで回るんですけども、そこでやっていたのは、新しく町内に入られた、それこそ地域おこし協力隊であるとか、新しくオープンした店であるとか、そういったところを回るというツアーでした。それによって、移住された方と既に住んでる人がまざり合う、そういうこともあります。ですので、先ほどの町内のすばらしいところ見るとあわせて、そういった新しくできた場所もめぐるとなるとツアーはぜひ考えてみたいと、当初予算、ちょっと間に合いませんでしたけども、ぜひ考えてみたいと思います。以上です。

○議長（川上 富夫君） 川端登志一議員。

○議員（2番 川端登志一君） どうもありがとうございます。私もそのツアーということには大変共感しますし、ぜひ実現のほどお願いいたします。

それに少しつけ加えるということになりますけれども、近年はそういういいところを見ようというようなことの中で、インフラツーリズムということがあるんだそうでございます。インフラツーリズム、そういう工事現場とか、いいところをめぐってみようと。代表的なものが前政権のときに話題になりましたハッ場ダムというのがございまして、これはまだ建設中だそうございますが、いや、廃止だとか、また、いやいや、やるんだとか。現在、そういうハッ場ダムのインフラツアーの中に組み込まれて、大変盛況なんだそうございます。

先ほどは教育の観点からお話を申し上げましたけれども、町内には本当にたくさんのインフラがございます。中でも、もちろんダムもすばらしいダムが2カ所もございます。高速道路も通っておりますし、そして、世界を代表する企業、サントリーさんにしても、水工場、氷工場合わせて4つとかあります。本当に数えれば切りがないぐらいで、よく大人の人が、江府町には何もないというふうに言われますけど、ないのではなくて、知らなかったということではありますが、教育の観点からもですけれども、町内の観光、産業も含めて、そういうインフラツアーというようなこともお考えいただきたいのですが、いかがでしょうか。

○議長（川上 富夫君） これは町長でいいですか。

○議員（2番 川端登志一君） はい。

○議長（川上 富夫君） 白石町長。

○町長（白石 祐治君） いろいろあります。さっき三ノ沢の話もありましたし、実は中電なんかのあそこも見学できるコースあります。あと、ダムもありますし、本当にたくさんどころがあ

りますので、具体的なものは今後検討してみたいと思います。

○議長（川上 富夫君） ありがとうございます。

再々質問をお受けします。

川端登志一議員。

○議員（２番 川端登志一君） ありがとうございます。

今は建設系のインフラということで町内のいいところっていう話題を提案したところでございますけれども、今度、ビジュアルの関係になると思います。昨年まで、今でもですけれども、先ほど出ました、町長さん、行財政方針の中にも、あわせてサントリーの協力のもとということで奥大山に誇りや愛着を持つ子供たちを育成するよう努めるという文節がございますが、確かにそうだと思います。宇多田ヒカルさんが出演された烏ヶ山の映像という、非常にすばらしいわけですが、町長さんは、それ以外に町内で撮影された、サントリーさんに限定してもいいんですけれども、撮影された映像があるのは御存じですか。

○議長（川上 富夫君） ここまでで、じゃあ、御存じかどうか、どうぞ。

○町長（白石 祐治君） そのサントリー以外のはちょっと知らないです。

○議長（川上 富夫君） 川端登志一議員。

○議員（２番 川端登志一君） これは意地悪クイズになるので大変申しわけございませんが、本当にサントリーさんの天然水が、この事業を始めて10年たったわけですが、その間に本当に多数の撮影をされております。江府町内で撮影された地区だけでも貝田地区、あるいは美用地区、鏡ヶ成の周辺などで、もう本当に多数の撮影をされております。そういうようなビジュアルをサントリーさんの協力のもとというふうにありますので、そういうようなビジュアルも利用していくお考えはありますか。

○議長（川上 富夫君） 答弁求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） サントリーさんとの協力のもとって書きましたのは、もうちょっとスケールの大きな話を実は考えておまして、今はちょっと申し上げることができないんですけれども、すごく大きなことを今考えて、構想中でございます。

〔空場議員 退席〕

○議長（川上 富夫君） 質問求めます。

○議員（２番 川端登志一君） 大変ささいな質問で申しわけありませんでした。壮大な構想があるというふうにお聞きしただけでも、きょうは質問した価値があったかなというふうに思います。

最後になりますけれども、何回も繰り返しになりますが、江府町には何もないのではなくて、知らないということのようでございます。大人も子供もぜひその知らないを知るようなことに注力をしていただきたいというふうに思います。

〔三輪議員 退席〕

○議員（２番 川端登志一君） そして、最後、ゲームのような質問になるかもしれませんが、本当に町民を挙げて、いいところ、行ってみたいところ番付検討会のような、そういうような、ラフな気持ちでも、本当に町内にはこんなところもあるなど。我々行政とか、固定観念でここを見ろというようなこともいいんですけれども、やはり中学生議会とか、いろいろ高校生、本当に小学生、保育園の方たちが見る、保護者から見る、また別の観点があると思いますので、そういうことを集約するようなことをぜひお願いをしたいというふうに思います。もしお答えいただければ、お答えをいただきたいと思います。

○議長（川上 富夫君） 答弁を求めます。

白石町長。

〔空場議員 着席〕

○町長（白石 祐治君） ちょっと蛇足になりますけど、実は私、副町長で来たときに、来たはなに、職員に対して自慢の１枚というのを募集しました。江府町で自慢できるところを１枚の紙に絵でも文字でもいいから書いてくださいっていうのをやりました。いろいろ出てまいりましたんで、その応用版っていいですか、それを町民さんに広めてやるということも、また企画案の一つとしてちょっと胸にとめておきたいと思います。以上です。

○議長（川上 富夫君） 以上で川端登志一議員の質問は終了いたします。

〔三輪議員 着席〕

○議長（川上 富夫君） ここで休憩をしたいと思います。再開は１１時３０分からお願いします。

午前１１時２２分休憩

午前１１時３０分再開

○議長（川上 富夫君） それでは、再開いたします。

質問者、空場語議員の質問を許可します。

５番、空場語議員、通学路の安全と点検についてということでございます。

○議員（５番 空場 語君） 議長の許可を得ましたので、質問３つありますけれども、とりあ

えず通学路の安全の確保、点検についてということでお伺いをいたします。

現在、小学校には82名、中学校には64名の子供たちが毎日通っております。朝の7時半ごろから、中学生は遅くなって8時半ごろまでですけれども、それぞれで町の中、あるいは通学路、踏切等々で通っております。江府町では今、通学に関しての事故はありませんが、通学路での事故は、ほかの全国的には、市町村や県では多々報道がされております。歩道に車が突っ込んだ、あるいは地震でブロック塀が落ちてきた、その下敷きになったというような痛ましい事故も起こっております。江府町も今や安全とは言えない状況になっているのではないかと痛感をいたしております。

昨年から高速道路の工事が本格的に始まりました。先ほどの質問にもありました、約4カ所、大きなトンネル工事、橋脚の建設工事を行っております。そこに、朝の6時半前後からですけれども、非常に早朝にもかかわらず、交通の状況が悪化しております。通勤・通学だけではありません。工事車両もたくさん通ります。7時半から8時ごろの機会によく見守りに出ます。大体80台前後、多いときは100台を超える時期もありましたが、日中でも例えば小江尾の上の高速2車線道路、ここで朝の9時前から約30分間見てみました。ダンプが主流ですが、30分間でその高速道路ところに上がるだけで約40台、ダンプだけで3分の2、約20台、それとあわせて橋脚の工事があって、工事車両もたくさん大山道路通るとる。こういう状況を見ると、交通の安全、通学路は安全なんだろうかなってよく考えます。

1年生が、もう去年の後半からですが、2人、3人で下校をしております。そういう状況を見て、江府町の通学路は本当に安全なんだろうかな。雪道の状況もあります。歩道が狭くなり、通行路も子供たちは車道にはみ出すぐらいのところも見受けられております。雪道は、よく凍って、滑ります。子供たちも、先生の指導で上手に一列でというわけの登校までは十分に指導は学校のほうではできんと思います。溝のほうに落ちたという話も聞きました。1人や2人ではありません。けがをしたという報告は、知っとられないかもしれませんが、私の耳には後から入ってきました。早急に点検をお願いいたします。ですから、町のほうでは、現状の通学路の歩道の点検をされたでしょうか。状況を把握されたでしょうか。子供たちの通学の安全ということについて、町長の御所見をお伺いします。

○議長（川上 富夫君） 答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 空場議員の御質問にお答えします。

通学路の安全についてどう考えてるのかというお話でございました。最初にする説明ございま

したけれども、特に本当に、先ほどからの質問にもありましたように、江府町の中でたくさんの工事が行われております。それと、サントリーさんも増設をされたりして、そういう車両もふえているのは事実であります。以前、議会の中でも交通の警備をする方に対してもうちょっとしっかり見るようにという御指摘もあって、そういうお話をさせていただいたところでもあります。

実際、こういう工事が入って、経済活動のほうはいいほうに働いているというふうには思っておりますので、工事を全くなしにするということとはできないことでございます。その中でいかに安全を確保するかということでございますけれども、町といたしましては、小・中学校、特に通学路というのは場所を、通学経路を指定しておりますので、安全に子供たちが通学できるようには極力努めているところでございます。今後もそういうふうにしたいというふうに思っておりますが、具体的な状況、どう把握してるかということにつきましては、教育委員会のほうから答えさせていただきたいと思っております。以上でございます。

○議長（川上 富夫君） 教育委員会から答弁を求めます。

川上教育課長。

○教育課長（川上 良文君） 失礼をいたします。先ほど空場議員から御質問のございました、どのような内容で通学路点検を行っているかということに対しましてお答えをさせていただきます。

御承知のように、通学路は、毎年、道路事情の変化や周辺環境の変化によりまして、新たな危険が発生することがございます。それを踏まえまして、関係機関との連携体制を構築し、交通安全対策を推進することに努めているところでございます。具体的には、平成27年の3月に江府町通学路安全推進協議会というものが設立されております。その中で、江府町通学路交通安全プログラムに基づきまして、毎年実施をしているところでございます。

具体的には、毎年5月ごろ、小・中学校において通学路点検を実施し、各学校から提出された点検結果をもとに、7月ごろ、関係機関と合同で通学路の安全点検を開催しているところでございます。先ほど申しました関係機関と合同でというものでございますが、まず、黒坂警察署交通課の方、それから日野振興センター、日野県土整備局の維持管理課から、それから県土整備局の建設総務課から、江府町交通安全対策協議会、それから江府小学校保護者会代表の方、江府中学校保護者会代表の方、江府小学校の教頭先生、それから江府中学校の教頭先生、子供の国保育園の園長、役場建設課から1名と総務課から1名と教育委員会から3名、15名の体制をもちまして、毎年7月ごろ、合同で通学路点検を行っているところでございます。

その中での内容でございますけれども、前年度までの実施状況、それから経過報告等をまず話し合いをいたします。そして、通学路の危険箇所について、学校等からありました御意見を受けて、

全員で協議をすると。その後、全員で通学路点検、現地調査を実施しているところでございます。車2台に乗りまして、小学校から御意見のあった箇所をみんなで見て回るというような点検の仕方をしているわけでございます。そして、10月ごろには、7月に点検した結果がどういうふうな改善されていったとか、また、途中のものは経過を報告いただいて、次に何をしていくかというようなことを検証をしているところでございます。

それから、次に、10月ごろになりますけれども、江府小学校、中学校のPTA並びに子供の国保育園の保護者会から合同で町長に対して要望会を開催しております。その中で必ず出てくるのは、通学路、危険箇所につきまして、町長のほうに要望が提出されております。それを受けまして、各担当課は現地確認をし、それに向けて回答をしているというようなこともございます。

そして、本年度でございますけれども、昨年7月、臨時議会のほうでも報告させていただきましたけれども、6月の大阪北部地震に伴う児童死亡事故に係る緊急通学路ブロック塀点検ということで、教育委員会のほうで全通学路のブロック塀の点検をしたところでございます。

そして、もう一つは、新潟の小学校の女の子が殺害されたという事件を受けて、こちらのほうも緊急に通学路点検、交通安全の視点から、また、防犯の視点から点検を実施したところでございます。以上です。

○議長（川上 富夫君） 関連で、冬季の除雪対策と雪道の安全体制については、小林建設課長。

○建設課長（小林 健治君） 失礼いたします。議員の御質問の通学路の除雪の対策ということにつきまして御回答いたします。

本年度は、通学路2.6キロを4業者に委託しております。積雪がおおむね15センチになれば、ドーザーとか、もしくは小型除雪機などで午前7時までに終了するように除雪のほうは計画をして、そういった形で行っております。以上でございます。

○議長（川上 富夫君） 再質問を許可します。

空場議員。

○議員（5番 空場 語君） 建設課長のほうからも除雪について話がありました。私も、ことは雪が1回ほどしか降らなかったんで、多くはふえることはできずに、また、時間帯的にも除雪をしない状態の中での、今度は例えば連携がとれていない県なんかの国道の除雪と、それと例えば町なりなんりの除雪の関係者と連絡がとれてないなっていうので一つ感じました。一つは、上町の中学校の通学路、横断歩道で信号もあります。運が悪いっていうのか、状況がそうだったのかわかりませんが、県のほうは除雪を朝の5時、6時でしておりますが、雪の降らなかった関係で、除雪の対応する人は除雪しなかったんです、これは仕方のないことなんです。ただ、そ

のときの点検をどうしたかな。通学路の道路の向こう側に、高さが五、六十センチの雪が除雪をしたままです。それと、中学校の入り口の歩道があります、橋渡って向こうに。あそこも除雪をしたそのまま。もっと余計雪がありました。ただ、私が見たときは8時ごろでしたので、子供たちはもう通学しております。雪の上を乗り越えて通学ということも見受けられましたので、状況はいろいろとあると思います。天候の難しさはあるんですが、そこら辺の配慮をした中での通学路の安全点検、除雪の関係も含めて、冬季での点検をお願いをしたいと思います。以上です。

○議長（川上 富夫君） これについては、教育委員会のほうの対策は学校に対してどういうふうなことをされてるのですか、答弁があれば求めます。

川上課長。

○教育課長（川上 良文君） 失礼いたします。先ほど御指摘ありました雪のときのことでございますけども、通常は歩道は除雪はきれいにしていただいているのは確認しましたが、先ほど指摘のありました、国道をかいたトラックの雪の玉があのかるときはありました。それは学校からの連絡がございまして、すぐに建設課のほうに対応していただくように連絡し、子供が通学した後ではございましたけども、9時過ぎごろには解決したところでございます。

○議長（川上 富夫君） 再質問があれば許可します。

空場議員。

○議員（5番 空場 語君） 点検作業を行っておられるということですので、都度都度の細々とした点は冬季の時点でも点検をお願いしたい。除雪に関して危ないところ、まだある、上町の踏切。あそこは、車が通るところは車だけの道だけしかあきません。横に車が来れば、中学生は慌てて逃げるといっても、あいたところに行きますが、あの付近はほぼ除雪はありません。誰もが除雪するということの視点がないようですが、そこら辺の対策もあわせて考えていただきたいと思います。

それと、いろいろと保護者なり、学校なりとの打ち合わせをして、点検をよくされてるのはわかりました。わかりましたが、私の把握した中では、ちょっとない部分があります。小学校のほうですけれども、現状、歩道の白線が消えかけたところが相当あります。ここが歩道というところの白線がほぼ消えております。それとか、近くにある水路のふた等が音がしてといいますが、これも把握はどうもおられるようですが、やっぱりがたがたして、特に冬なんかは少々の分のが凍って滑るんですよ。けがをした話は聞いたことはありませんが、ちょっとこれは直したほうがという部分では話をされたように一応聞きましたので、今後とも通学路の安全等については、教育委員会を含めて、建設課のほうも含めてですけれども、点検のほうをまた、そこら辺を、ま

た別な方法ではないんですけれども、認識していただいて、点検のほうをよろしく願いをしたいと思います。私の質問はとりあえず。

○議長（川上 富夫君） 通学路の安全対策について、現在の工事等含めて、課長等の答弁ありましたけども、総括的に町長のほうから答弁を求めます。

○町長（白石 祐治君） お答えしましたように、一応、学校とか保護者の方とかと一緒に点検は行っていますけれども、それで完全かと言われると、今、空場議員がおっしゃったように、そこでは出てないこともあるかと思います。ですので、今後そういう点検をするときに、きょういただいた御意見をその場で出してみても、一緒に点検させていただけたらと思います。より安全な通学路が確保できますように、町も、そして関係機関と一緒に努力していきたいと思えます。以上です。

○議長（川上 富夫君） ありがとうございます。

これにつきましては、議会のほうも安全については大変に心配をしておりますので、ぜひ行政も含めて事故がないように、工事の車両が多くなってきてますので、よろしく願います。

では、次の質問を許可します。

空場議員、江府町の将来を担う人材育成について。

○議員（5番 空場 語君） 江府町の将来を担うといいますと、若者全てが保育園から、また、社会に出た若い社会人も人材育成の対象と考えております。今や東京圏以外ではほぼ人口減ということで、どこも対策をいろいろ考えてはおります。江府町も、去年から約1年間で約100人近い人口が減っております。この状態が5年、10年続くとすると、相当な人口減になるな。町長の31年の行財政方針の中にもありまして、先ほどの質問にも少し出てきましたが、担い手の確保、若年、若い人の人口をふやそうという取り組みの中で何が一番大切かという、ふるさと教育を含めた、あるいはアントレプレナーシップスクールにおける教育におけるやっぱり人材育成をもっと進めていただきたい。そういう話は先ほどの町長の回答にもありました。しておられるということでの理解をいたしました。若者の人材育成というのは、江府町の未来そのものがつくられていきます。小学校は小学校なり、中学生は中学生なりですが、いろんな、中学生議会の中も含めて、やっぱりその段階で教育を受け、あるいはふるさとへの思いというのはだんだんと違ってきて、高尚になってきます。

提案ですが、若者を含めた町民会議というか、そういうのも設けたらと、あるいは、町長が思いつかれりゃと思います。今いろんなところで、学校にも当然行っとられますし、日野高校の関係のふるさと関係の教育にも出向いてはおられます。それを推し進めるのに、町内版の町長と語

る会、若い者と語る会、なかなか仕事があって、大学に行っって帰ってこれんわというの、難しさはあると思いますけれども、この間、成人式で20何人成人をされて、その中でも多分話はされたと思います。やっぱり若い者を次の世代に、未来を担う若い者にそこをつくっていくわけですから、そこら辺の教育というのはどうなのかな、町長の所見をお伺いします。

○議長（川上 富夫君） 答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 空場議員の御質問にお答えします。

江府町の将来を担う若い人たちへの人材育成が大事じゃないかというお話でございました。私も、行財政方針の中にも書いておりますけども、これからの最重要課題の一つだというふうに認識しております。ずっと保育園から小学校、中学校と、こう続けて江府町、子育て、一人一人大事にしてやってきておりますが、今ちょっと高校になるともういろいろばらばらになってしまっ、次に出会うのが成人式というようなことになってしまいますんで、そのところを何とかできないかなということで、日野郡3町が一緒になって取り組みを行い始めたところです。行財政方針のほうにも若干書いておりますけども、そのあたりの仕組みがこれからつくっていかればいかなと思います。昔、高校友の会というのを何かつくられたことがあったようですが、何か消えてしまったという経緯もありますので、そのあたりのことも踏まえて、どういう形がいいのかというのをこれから考えていきたいと思っております。

これ、ことしでもう平成の時代も終わります。最近よく考えているのが、もう昭和の時代は既に終わってしまっているのに、まだまだ何か昭和の時代の感覚でおる人たちがいっぱいいて、今の人たちは平成生まれ、そして、これからさらに新しい年代の人が生まれてくる。その人たちとどういうふうに、私も昭和なんで、折り合いをつけていくか。ですから、私たちの世代の感覚を押しつけてはだめだというふうに思っています。一番大事なのは、何かやれると、自分たちでできるんだというところを、そういう成功体験を持たせてあげたいなというふうに思っています。ですから、あれしちゃだめだ、これしちゃだめだ、そんな仕方はだめだとかじゃなくって、自由に意見が言えて、それに対してはよくやったねいうようなことができることをこれからどんどんやっていって、さっきの質問もありましたけども、江府町のよき、これをもっと本当に思ってもらって、もっと盛り上げていってあげるような仕掛けができないかというふうに考えております。以上でございます。

○議長（川上 富夫君） 再質問があれば許可します。

空場議員。

○議員（５番 空場 語君） 関連ですが、若い者の人材育成というときには、いろんな手法があります。財政的な部分といいますか、奨学金とか、そういう面での後押しの仕方もあります。やりたい夢を持って、いろんな仕事にチャレンジしとる、そういう子供には奨学金という制度もあります。お金がなかなかなくてということで行きがたい子供もあるように聞いております。しかし、奨学金、後で返すようになるんですが、奨学金の免除制度というのも存在します。江府町では、まだありません。いろんなところで、例えば看護師がそうです。あるいは、不足する状態になる、看護師さんばかりではありません、介護士、保育士、あるいは建設関係でいえば土木技士なんかも当然足らなくなる。そこのところにそういうのをPRしていただいて、あるいは日野高校の関係の学校のそういう日野郡３町の部分でも中に出てきますが、その中でPRしていただいて、これに江府町は取り組んじようよということでのやっぱりしっかりアドバイス、バックフォローするんだよということもやっていけば、これからの人材難、あるいは人手不足の解消につながっていきゃあせんかと思いますが、町長のお考えを聞きます。

○議長（川上 富夫君） 答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 奨学金制度というのは、実際、いろんな制度がありますが、以前、中学生議会で、帰ってきたら免除するよってやなことも考えているということありましたが、こちらについては実はまだ検討中でございます。

私は、奨学金制度だけではなくて、やっぱり地元こういう会社、勤め先があって、こういうことやってるんだよ、先ほど本当に工事現場を見るようなことも一つの一環だと思います。やっぱり何をやってるかっていうのが子供たちにきちっと伝わっていないのかなという気もしております。ですから、都会ばかり見て、都会に行ったけど、実はブラックな企業ばかりかもしれないのに、そこに憧れてしまうというようなことになりはしないのかなという気もしておりますので、ぜひ江府町内、あるいはこの西部管内でもいいんですけども、こんな企業さんがあって、こんな仕事をやっておられる、農業だってそうだと思います、そういったことをもっと子供たちにしっかりわかってもらえるような教育をしていきたいというふうに考えております。以上です。

○議長（川上 富夫君） 再々質問があれば許可します。

空場議員。

○議員（５番 空場 語君） 奨学金の免除制度等については、これからほかの施策も含めて考えるということですので、次の中身ですが、もう一つは、役場職員の研修やらレベルアップして、サービスの向上に努めるよという行政方針、町長が言っております。行政の専門職を養成するの

かどうか、あるいは以前の質問にあったプロ化といいますか、これは絶対こういうもの、例えば防災監、この方はおられません、江府町に。防災士もおられません。江府町の防災のそういう資格を、プロ的なものを持った人を、この町長が言っておられる研修の中でつくられるのか、あるいはそのほかにもいろんな面で高度な知識が要る人はいっぱい要ります。例えば財政関係もそうです。いろんなところでプロ化といいますか、専門になる、これに任せときゃええというよりも、これを次々の世代に向けて、江府町のそういういろんな変えられてまた部分部分に財政も十分にできるような町にしていこう、そういう考えを持つ人を養成するということなのかをお聞きしたいと思います。

○議長（川上 富夫君） 済みません、確認しますが、これは質問事項には上がってはおりませんが、人材育成をしていくということのみで、こういうふうなプロ化も必要かというふうに変化したわけではないというふうに理解すればいいですか。

○議員（5番 空場 語君） よろしいです。

○議長（川上 富夫君） では、どう言いますか、答弁求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 行財政方針の中に、役場職員のレベルアップというのは上げていたと思います。これに関しては、通常業務の全般の話をさせていただいたつもりでございます。住民さんの言われること、あるいは起きてる現象をきちっとつかんで、それに必要な対応を迅速に行うというのが基本かなというふうに思っています。

プロ化の話で、ごく専門的な技術を持つようなものにつきましては、小さな町ですので、なかなか全てをそろえることは難しいと思います。ただ、その中で、防災監ということだけは、やはりこれだけ災害が起こっている状況であれば、今後検討してみる課題なのかなというふうには考えております。以上です。

○議長（川上 富夫君） 再質問があれば許可します。

空場議員。

○議員（5番 空場 語君） 総括になります。回答、もしあればしていただきたいですけど、そのほかにもいろんな資格や技術、江府町も土木技士の募集もしとられました。そういう面では、いろんな人材育成の中で、そこに向かって、必要なもん、江府町にしっかりするのに必要な人材ってというのは要るわけですけど、ないとやっぱり不安だし、どうなっていくのかようわかりません。人材育成については今いろんな方策も考えとられますので、人材育成についての質問は以上で終わります。

○議長（川上 富夫君） 人材育成については、以上で質問は終わります。

続いて、じゃあ、次の質問を許可します。

空場議員、買い物難民をなくそうと。

○議員（5番 空場 語君） 失礼します。買い物難民っていうやな難しい言葉で言いますけれども、現在、江府町の人口は2,900人余り。先ほど言いましたように100人ぐらい年間減っていくんですが、今65歳の高齢者は1,300人幾ら、高齢化率は45%を超える段階。55歳を含めた年代を考えると1,700人を超えて、この人口だけで2,900人のうちの1,700人、60%の人がいる。今後、いろんな状況の中で、人口変化はあると思います。あるいは、高齢者も多いということは十分認識をしておられると思います。高齢になると、私も70になりましたけれども、70歳を過ぎたらシルバーマーク、75歳を過ぎたら免許返納もあり得ます。ただ、どんな高齢になっても、毎日の生活があります。生活せにゃいけません。生きていかななくてはなりません。こんな状況になりつつあります。

ところで、買い物やいろんな状況があいきょうからえんちゃんにかかります。まだ1年になりませんが、この状況を、あいきょうは、あいきょうの車といえば失礼なるですが、今、あいきょうの車のマークがそのまま入ってる。何でって聞いたら、これは余談な話になりますが、金が無いんです。あいきょうの車ではありません。江府町のえんちゃんの車。というので、この間、袋原にちょこっとついていってみました。お二人の高齢者、100歳の近い方と90が近い方、2人だけでした。ええっ、えんちゃんの経営はこういう状態って言ったら、ほかのほうを聞いても数が少ないっていうのは重々見えてはきておりますが、これで経営がどうなんだろうかね。いろんな見守りやなんかの支援の関係で補助金等々いただいとられるのも知っとります。ですが、えんちゃんのは車の2台、移動販売者、軽トラも含めて2台とスーパーも江尾と神奈川やっております。ここら辺の設備も、奥見てみると農協からの部分かなというぐらい古いのもあったり、あるいはあいきょうから引き継いだ古いものも結構あります。こういう状況で、えんちゃんは事業継続は大丈夫なんかねというのが見えてきましたので、そこら辺の所見を町長にお願いをいたします。

○議長（川上 富夫君） 答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 空場議員の御質問にお答えします。

タイトルは買い物難民をなくそうということなんですが、えんちゃんの経営がどうなるかという御質問だったと思います。これは、個別の御商売の話なので、私からお答えするものではない

というふうに思います。以上でございます。

○議長（川上 富夫君） 関連の質問があれば許可します。

空場議員。

○議員（5番 空場 語君） 個人の経営に関してではありませんが、えんちゃんの事業というのはやっぱり見守りや高齢者の支援というのに非常にウエートを置いて、町も、あるいは町ばかりではありませんが、補助金やら何やらが出とります。ある程度、その部分での活動もされております。実際行ってみました。買い物はどうしたのって言ったら、いや、配達したげたよ。そういうもんを持ってない人やら出れない人に対する配慮がされておりますので、そこら辺の経営、中身のもんばかりではありませんが、この事業というのは非常に意義があるものの中で、去年、町もいろんな補助金制度を使った中で後押しをして、できたもんです。

袋原に行きましたが、袋原のお二人のお年寄りも、いや、これがなげにゃ生活ができん、何とかなあわってという話もされました。俣野でも同じことも聞きました。やっぱり支援ばかりではありませんが、中山間地域だけでなく、町の中でもそういう声を聞かれませんか。買い物に行けんやになる。今の話ではないです。

皆さんは皆若いですから、今のうちは買い物に行けます。ある程度の60、70までは行けます。これが5年たって、10年たつと、先ほど言った免許返納がありましょ。足腰の不安もありましょ。認知症、その他の病気になる場合もあります。いろんな面で高齢者の支援、見守りというのが必要にもなります。生きていくには買い物もせにゃいけん。遠くには行かれん。だったら、えんちゃんの事業どうしますか。そういう経営を、赤字を云々で先々の話までは町は直接はタッチはないかもしれませんが、この仕事は確かに、先ほどの言いました人数でいうともうかりません。設備も古いです。

ここで提案といいますか、何かないかと考えたら、例えば神奈川のスーパー、設備も先ほど言ったように古いのは古いです。隣にサロンがあります。2階のスペースは今は建設業者が借りておられますが、あいております。あそこのところに人が集まる要素があります。一つのアソコの神奈川地区の拠点的なものになりつつあります、仮の。そうすると、あそこに投票所ができましたですね。あわせて考えると、人が集まる場所、もう一つでいいところは、避難でもできる場所にも考え方ではあります。財産云々の渡しの関係はありますが、そういう面で小さな拠点をつくるっていう方向性はどうかかな。いろんな面があそこに行きや何とかなる部分の拠点をあそこのところで推進をしていただきたいですが、どうでしょう。

○議長（川上 富夫君） 済みません、空場議員、最初の質問の買い物難民ということの中で、1

番目に上げられてることについての答弁でよろしいでしょうか。

○議員（５番 空場 語君） 失礼しました。ちょっと一つこの買い物難民も含めて……。

○議長（川上 富夫君） このところが今の質問の趣旨でありますので、今の個人的な経営事業については答弁はできませんので、最初の一番大きな大もとについての答弁をしてもらおうと思います。それでよろしいでしょうか。

○議員（５番 空場 語君） はい、よろしいです。

○議長（川上 富夫君） 答弁求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 町内の買い物難民、いわゆる自分で運転して買い物に行くことができない人たち、そういった方々、多いです。実際、集落総合点検でもいっぱい話を聞きました。本当にえんちゃんに来てもらって助かると、移動販売、助かるとという声はたくさん聞きました。これを何とか守らないけん。その中で、ある集落の方々は、農協が撤退されるときに、自分らが頼んでやってもらったもんだけん、わしらが買いに行かにゃいけんぞとってくださった方々もおられました。まさにそうなんです。ここがなくなると、困る方がいっぱいおられます。これは移動販売だけではなくて、江尾の町なかも本当に手押し車みたいな押して、買い物されてるおばあさんもいっぱいおられます。これ、なくなったら本当に困ります。ですので、町としては、いろいろな助言をアドバイザーの力もかりながらやって、何とかこの事業が継続できるような工夫を今やっているところでございます。そうは言っても、先ほどちょっと申しましたけど、個人の事業なので無理やりしていただくことはできませんが、なるだけ継続できるように支援のほうはしていこうというふうに考えています。ただ、そればかり言っとられません。万が一のことも考えて、町内の移動手段、これについての検討も同時並行でやっていこうというふうに考えております。以上です。

○議長（川上 富夫君） 再質問があれば許可します。

空場議員。

○議員（５番 空場 語君） 最後の質問になると思います。現状でスーパーも何もないところの俣野地区が今度、活性化されます。診療所ができます。あそこのところには広場も、社協がやります。オレンジカフェも人が集まるところの部分には少しずつはなっております。全体ではありません。あそこのところにもうちょっと便利なものができたらどうか。あるいは、町全体ではないですけど、先ほどの小さな拠点という話を神奈川のほうでしました。俣野地区にもやっぱり買い物不便、何人かは、いや、えんちゃんは行っとられるんですが、人が集まるところがある

ところには物があると、あるいはえんちゃんに行ってもらうような設備があったりすると、やっぱりにぎわいといいますか、そういう部分の創生、あるいは生活ができるような状況もできるんじゃないかと。小さな拠点という、地方創生の中にもよく出てくる言葉です。いろんな中で、地方創生の過疎化の部分やらコミュニティーやら、いろんな分で補助金があります。

何とかしてあそこのところに、あるいは俣野も神奈川もそうなんですけれども、拠点的なもので人が集まって、生活していく、楽しいこともあるようなところにならんだろうかという部分も考えています。町長の所見をお願いをいたします。

○議長（川上 富夫君） ちょっと済みません、議長からですが、通告質問とはない形の中の質問でございます。これについては一応要望ということでお聞きを町長のほうにしてもらおうということで御了解願えればと思いますが、いかがでしょうか。答えができますか。（「いや」と呼ぶ者あり）いや、いいです。今については、今回の通告には全くないということの質問でございますので、申しわけございませんが、これについては要望で、言われたというふうに御理解をお願いしたいというふうに思っております。

以上で空場議員の質問は終わります。

○議長（川上 富夫君） これで午前中の一般質問は終わります。

午後は1時半からということになります。よろしくお願ひします。

午後0時17分休憩

午後1時27分再開

○議長（川上 富夫君） そろわれました。時間、1分ほど早いですけども、再開したいと思います。

質問者、三輪英男議員の質問を許可します。

7番、三輪英男議員。

○議員（7番 三輪 英男君） ただいま議長のほうから発言のお許しが出ましたので、質問させていただきます。午前中は大変熱のこもった議論等がありましたので、なるべく簡潔にと思ひながらも、若干長くなることもあろうかと思ひますので、お許しを願ひたいと思ひます。

まず、質問に入る前に、昨日、町長が述べられた平成31年度江府町行財政方針について、これは就任をされた平成29年度と30年度の江府町行財政方針を照らし合わせてみますと、7つの基本的な方針として掲げてあるものは、これは江府町未来計画の中の基本的な事柄でございます。

して、それを変更なしにきちんと継続的に行政を遂行しようとする心構えが見えたように感じております。何事も継続は金なりという言葉が出てくるような感じを受けましたので、引き続きよろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、質問に入らせていただきます。

空き家対策等についての質問でございます。これは、計画策定の趣旨と目的をちょっと説明させていただきますと思ひます。今後も空き家等が増加され、空き家等に関する問題は一層深刻化することも懸念されることから、国においては、基本指針の策定、市町村による空き家等対策計画の作成、その他空き家に関する施策を総合的、かつ、計画的に推進することを目的としております。平成26年11月27日に空家等対策の推進に関する特別措置法を公布し、空き家等に関する施策を総合的、かつ、計画的に実施するための基本的な指針を策定されております。これらに基づいて、本町においても、適切な管理が行われていない空き家等について、法に基づく処置の運用、対策の実施を推進し、公共の福祉の増進と地域の振興に寄与することを目的として、本計画を策定されております。計画期間は、2019年度を初年度として、2023年度を目標とする5年間とされております。なお、計画の期間中であっても、税制改正や社会情勢の変化に柔軟に対応できるよう、必要な見直しを行うこととされております。

そこで、江府町空き家等対策計画に関して、去る平成31年1月21日月曜日の臨時議会の全員協議会において趣旨説明がりましたが、内容のボリュームがかなり多くて、議長より諸般の事情によって当日の説明、質疑については後日改めて時間を設けて対応されるという旨の発言があり、説明は途中で終わりました。その後、現在まで全員協議会においてそれらの説明はされておきませんが、そんな中、先般、平成31年2月1日に事務連絡として、担当課住民課長より、議会総務経済常任委員長と江府町空き家等対策協議会の委員であります私宛てに、江府町空き家等対策計画の告示について書面が郵送されてまいりました。

説明には次のように記されておりました。江府町空き家等対策協議会で審議いただき、パブリックコメントも募集し、検討を重ねました。江府町空き家等対策計画を告示しましたので、お知らせいたします。パブリックコメントは広く意見を募集しましたが、意見の提出はありませんでした。事務局で文末の言い回しなど細部を修正して、2月1日付で告示し、町のホームページにも掲載いたしました。御審議いただきまして、ありがとうございました。以上のような内容でございました。

全員協議会において協議が不十分であり、また、江府町空き家等対策協議会においても計画の趣旨を事前に了解をとというような趣旨の説明だけでありまして、パブリックコメントの募集期間、

12月3日から12月20日でしょうかね、予定とありますが、パブリックコメントの情報はそのように対応されてたでしょうか、お伺いしたいと思います。

○議長（川上 富夫君） 答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 三輪議員の御質問にお答えします。

江府町の空き家等対策計画についての策定の経過についての御質問だったかと思います。確かに1月21日の全員協議会で趣旨説明をしようとしたところ、ちょっと時間がなくて、後日という話になったのは事実でございます。ただ、若干誤解していいかがありますのは、これは議会で承認を得て、説明を得てから策定するものではないということだけ一つ申し上げておきたいと思えます。あくまでも制定するのは協議会の中で議論し、そしてパブリックコメントを求めて、修正があれば修正し、定めるものでございますので、手続の過程においては、私はきちっとできているものというふうに認識をしております。ただ、丁寧に、要は行政が行政情報を議会のほうにきちんと出すという意味合いで、ちょっと説明しようと思いましたが、時間がずれてしまったということについては申しわけなく思っております。

パブリックコメントのことでございますけれども、これは一応、実際、期間を定めて募集しておりました。12月、たしか20日ごろだったと思えますけれども、期間を切って募集をかけております。インターネット等で募集をかけておいたと思えます。結果的に意見がなかったので、意見なしということで決めさせていただいた。

委員の皆様については、議員も委員のお一人であったんですけれども、当日の会議のときには修正意見がなければこの事務局案で決めさせていただきますというお話をしておりましたので、もうそれでよかろうということで話を進めさせていただいたところなんです。確かにこういう経過でこうなりましたというのが、決めてから事務連絡で行ったというのは多少不親切だったかもしれませんが、事務手続上はきちっと行われたというふうに認識しております。以上でございます。

○議長（川上 富夫君） 再質問を許可します。

三輪議員。

○議員（7番 三輪 英男君） ありがとうございました。

そういう理解力を持っては十分、私も受け入れる心づもりでありますけれども、ただ、残念だったといいますか、空き家等の協議会が私も委員にさせていただきまして、これは今後の計画に基づいた協議会というものも立ち上がると思えますので、そのメンバーということにずれますか、

それともそれは新たに選ばれるような協議会委員でしょうか、お尋ねします。

○議長（川上 富夫君） 答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 実際11月22日に協議会1回目を開催しております。そのとき資料のほうもお配りをしておりますけれども、協議会自体は2020年3月31日までが任期となっておりますので、メンバー的にはそこまでお務めいただければというふうに考えております。以上です。

○議長（川上 富夫君） よろしいでしょうか。

再質問を許可します。

三輪議員。

○議員（7番 三輪 英男君） その辺のところは趣旨が理解できましたので、ややもうちょっと誤解が及ぶような感じがありましたので、今、町長の答弁でその経緯等もわかりましたので、了解いたしたいと思います。

○議長（川上 富夫君） 了解しました。

関連質問の2番目についても、質問お願いできますでしょうか。席、そこで結構です。

○議員（7番 三輪 英男君） 2番目ということで、空き家対策の推進体制に関してということで、民間企業等との連携ということで、これも趣旨が空き家等問題解決について、民間事業者による活用に向けた不動産の流通や所有権の問題解消に向けた専門家への相談などが有効になるため、民間事業者、専門家の方々と連携を図っていきますとあります。

白石町長の平成31年度の行財政方針には、きめ細かな移住定住相談や空き家バンクの管理等について、希望者のニーズに柔軟、かつ、迅速に対応できるNPO法人こうふのたよりと引き続き委託しますとありますが、恐らく十分に消化できるとは思いますが、昨年の町内事務調査にお邪魔した折にはこれといった活動の中の様子が見えにくいところがありましたので、若干の不安はしてありますけれども、そういう不安なく、引き続き委託するということの裏づけを御紹介できればと思います。

○議長（川上 富夫君） 裏づけですか。答弁できますか。質問の趣旨がちょっと伝わりにくいですが。

○議員（7番 三輪 英男君） そうしますと、さっきちょっと議長にお願いしましたけども、3番目の質問の1番と共通的な問題ですので、そちらで御回答いただければありがたいと。

○議長（川上 富夫君） 空き家対策については、以上でいいですか。

○議員（7番 三輪 英男君） いいです。あと3番。

○議長（川上 富夫君） ですから、あわせて関連質問について、3番については後でいいということですよ。

○議員（7番 三輪 英男君） いや、3番は、3番と一緒にいいです。

○議長（川上 富夫君） じゃ、お願いします。

○議員（7番 三輪 英男君） 空き家対策の質問3のところに入りたいと思いますが、よろしいでしょうか。

○議長（川上 富夫君） はい。

○議員（7番 三輪 英男君） 町内の空き家が133戸とも言われておりますが、実は、平成28年11月に、当時の奥大山まちづくり推進課が空き家実態調査の結果を報告をいたしております、町報にもきちんと出ております。それを見ますと、調査目的は、江府町の空き家の現状について、町内全域の住宅の外観目視による調査を行いました。老朽危険家屋に対する地域の安全性の確保及び防犯対策、空き家の利活用による移住者ニーズに対応した住みかえの促進など、今後の住宅施策の推進を調査の目的とし、今後の空き家対策の充実を図るためのものです。

調査範囲としては町内全域、調査方法は外観目視調査。その結果、空き家の軒数、旧江尾校区71軒、全体の52%、旧米沢校区30軒、23%、旧明倫校区14軒、11%、旧俣野校区18軒、14%、計133戸と出ております。その今後の対応という形で、これらの実態調査、分析を踏まえ、空き家の建物の状態に応じた対策を検討していく。所有者アンケートによる意向調査の実施、空き家対策の取り組みに当たっては、空き家になった理由、その後の今後の利用予定等、空き家所有者の意向を調査した上で慎重に検討するとありました。

そこで、今すぐにでも居住可能な空き家は何軒と把握していらっしゃいますか、また、現在、所有者と協議中の物件が何軒あり、進捗状況はどうなってるかを伺いたいと思います。

○議長（川上 富夫君） 答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） この空き家の計画のほうにも133軒という軒数は載せておりました。お尋ねは、その中で実際に住める空き家は何軒あるかということがまず一つありましたけども、実は、現在のところ1軒もありません。既に、全て住んでいただいているとか、そういう状況になってしまって、今のところ住めるところはありません。ただ、修繕をすれば住むことが可能ところが7軒あります。今、窓口がNPOこうふのたよりさんでやっておられまして、結構情報も入ってきているようです。ですので、次第にその物件はふえてきてますけれども、現状、やは

り何らかの修繕をしないと入れないということで、それが7軒ございます。以上でございます。

○議長（川上 富夫君） 再質問を許可します。

三輪議員。

○議員（7番 三輪 英男君） ありがとうございます。現在の状況をお聞きしまして。

ただ、私が若干知り得た情報としまして、空き家の軒数が、先ほど申し上げました133軒から166軒というふうな、31年度1日ぐらいの時点でしょうか、という数字もあるようでございますけども、恐らく今後とも空き家バンク等を有効活用していただいて、情報提供をしっかりと進めていかなければいけないのかなというふうに思っています。

参考までに、空き家の状況を見ますと、近隣で、日南町は481戸、伯耆町については78軒というような、ばらつきがありますけども、恐らく、今後どんどん進んでいくという中で、今、町長が御答弁されました積極的に空き家の活用方法見出していただきまして、少しでも空き家の軒数が減ることを期待したいと思います。いま一度。

○議長（川上 富夫君） これ、答弁よろしいですか。

○議員（7番 三輪 英男君） はい。

○議長（川上 富夫君） そうしましたら、1番目の空き家対策の計画については、総括的に町長、何かございましたら、いいですか。答弁求めます。

○町長（白石 祐治君） 空き家は、実はいろいろ集落回ってますと壊れそうだと、倒壊しそうで危険な空き家があるんで何とかならないかという問題も片やあります。その反面、ちょっと直せば住めるのになっというお話もあります。この両面を解決するために、今回お話のあった協議会をつくる、そして計画をつくる、この2つをやることによって、国の補助金が受けられるということのために、今回のこの仕掛けをやってみたというところでございます。御理解をいただきまして、どんどん今後も空き家の情報をNPOこうふのたよりさんのほうに流していただければと思います。以上でございます。

○議長（川上 富夫君） よろしいでしょうか。

○議員（7番 三輪 英男君） はい。

○議長（川上 富夫君） そうしましたら、2番目の認知症対策について、2つありますけども、全て関連でございますので、一括で質問のほうを上げてください。答弁は合わせてさせていただきます。

○議員（7番 三輪 英男君） 認知症対策について質問いたしたいと思います。御存じと思いますが、本町の介護保険の基本理念について見てみますと、団塊の世代が75歳以上となる202

5年に向け、中長期的な視野に立ち、介護保険制度が持続できるようにサービス基盤の整備等に努めるという観点から、江府町未来計画の基本理念、「思いを形に 未来につなぐまちづくり」、「3000人の楽しい町」を踏まえ、人が生きることの全体を支え合う、誰もが住みなれた地域の中で安心して暮らしていくことができるを基本理念、目指すべき町の姿を、100歳まで笑顔で、長生きでよかったと言える町と設定しております。このことについては、白石町長も常々おっしゃっておりますので、私も同感だと思っております。

このたび、認知症をテーマに取り上げた理由といたしまして、私自身、運転免許の更新に、ことし1月、自動車学校にて高齢者運転講習を受けました。その際、事前に認知症の症状の有無を確認する認知症テストがあり、このテストに合格しなければ、次の高齢者運転免許講習に進めない仕組みになっています。該当年齢は75歳以上となっておりますので、次の運転免許更新には私自身が該当するので他人事ではなく、改めて認知症について調べてみました。

本町の認知症高齢者数は、平成29年、ちょっと古いですが、4月時点で要介護認定者296人のうち、認知症日常生活自立度Ⅱ以上が242人と記載されておりました。厚生労働省の平成27年全国将来推定値10.2%よりも高い状況です。計画では、高齢化は今後もさらに進行していくのが想定され、75歳以上の後期高齢者も、より一層増加していくことは想定されます。また、ひとり暮らし高齢者や認知症高齢者の増加、高齢者が高齢者を介護する老老介護、地域で支え合う人とそのつながりの希薄化等、さまざまな問題がより顕在化していくことも懸念されますと、計画にはきつく危惧されているような字句が並んでおりました。

江府町の認知症対策、課題といえますか、物忘れ外来等の現状から、高齢化率45%の本町では、要介護認定にかかわる認知機能に何らかの障害のある高齢者の割合が高く、先ほども述べましたが、今後ますます増加することは想定されます。また、近年、認知症による症状がある方が外出したまま行方不明となるような事例も複数あったことから、行方不明者を早期発見するための地域ぐるみの対応など、認知症になっても地域で安心して暮らせるためのネットワークづくりが求められています。

誰もが認知症とともに生きることになる可能性があるなど、認知症はみんなにとって身近な病気であることを前提に、社会全体で認知症の人を支える基盤づくりを進めることは肝要となっております。

そういう中で、認知症への理解度、これを深めるための対策はどのように捉えているか、また、認知症の発症予防、重症化予防のための居場所づくりなど、そういった関連で施策をどのように対応されているか、伺いたいと思います。

○議長（川上 富夫君） 答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 三輪議員の御質問にお答えします。

江府町の認知症対策について、現状を御説明いただいた後に、理解を深める対策はどんなことをやってるのかっていう話と、あと居場所づくりについてどんなことをやってるのかという御質問だったと思います。

実際、私の親ももう八十四、五になっておりまして、日々暮らしておりますと、われらは大丈夫だろうかという話をよく聞きます、認知になったらへんだろうかみたいな話を日々しておりますので、まあ、大丈夫じゃないっていうような話をしながら暮らしています。それだけやっぱりすごい身近な感じで受けております。

実は、恐らくもう御存じだと思いますけども、去年の11月に町報「こうふ」11月号というのが出ておりまして、そこに認知症特集というのを4ページにわたって行っております。手元に、抜粋持ってきたんですけど、ともに生きる、温かい目と手、認知症になっても住みなれた地域で安心して暮らせるまちづくりということで、ここに認知症とは一体どういう病気なのかとか、認知症を引き起こす主な病気の種類であるとか、認知症の症状、あるいは加齢上の物忘れとどう違うのか、あるいは認知症の方の思い、そして家族の方の思いはどうかとか、あるいは実際に家族や大切な人が認知症になったらどうしたらいいのかとか、あるいは人と人との交流、地域での支え合いをどうやっていくのかとか、認知症や介護予防のために具体的にどんなことをやってるのかっていうようなことが、結構克明に記されております。全世帯に配られておりますので、私としては、やはりこういったものを読んでいただいて、町民の皆様全員に認知症に対する理解を深めていただきたい、それが認知症の理解を深める対策の一つなのかなというふうに思います。

居場所づくりにつきましては、具体的な施策を担当課が考えていると思いますので、担当課長の出番をつくりたいと思います。以上でございます。

○議長（川上 富夫君） 担当課長のほうから答弁求めます。

生田福祉保健課長。

○福祉保健課長（生田 志保君） 失礼します。御質問と出番をいただきましたのでありがとうございます。

今、町長も申しましたように、居場所づくりにつきましては、町報の11月号のほうに載せております社会福祉協議会さんのまちなかサロン、それから、今、これからますます盛んにやっていかなければならない俣野いこい広場、オレンジカフェ、それから、午前中の空場議員さんの質

間の中に少し出てきましたけれども、江尾のボランティアセンターと神奈川サロン、それぞれ憩いの場として利用していただいております。

それから、ひとり暮らし高齢者の集いということで、これは社協さんのほうで、事務所のほうでやっていますけれども、園児や小学生との交流などもあります。それから、物忘れ外来ということで、認知症に関する身近な専門の相談機関ということで、地域包括支援センターと江尾診療所が共同で運営してやっております。

それから、認知症予防の江尾の会というのがあります。これは吉野さんという認知症の方の家族の会を主催しておられる方に来ていただいておりますが、回想法というので、昔、自分はこうだったよとか自慢し合ったり、いろいろ楽しい思い出を語り合ったりしながら脳を活性化していくということをやっております。そのほかにも体操やゲームなどを行っています。これが毎月第1火曜日、包括支援センターで主催しています。

あと、家族の会というのがありまして、これは同じように吉野さんに来ていただいて、認知症の方を介護される家族の方が苦労話ですとか、自分はこんなふうにして楽しくやっていますというような話をし合って励まし合う会、これも毎月第2木曜日にやっております。あと、井戸端グループ支援といいまして、集落など小さいグループの活動への補助を行っておりますので、ぜひ御利用いただきたいと思います。

人生100年時代というのをよく聞かれると思いますが、寿命が延びまして、人生の後半で多くの方が認知症とつき合いながら生きていかなければならない時代が来ておりますので、そういった生きるステージを経験すること、楽しみながら経験できるように、我々も施策を展開していきたいと思います。以上です。

○議長（川上 富夫君） 再質問を許可します。

7番、三輪議員。

○議員（7番 三輪 英男君） ありがとうございます。

認知症そのものは、あしたにでも私自身になるかもしれません。皆様方、若い方はまだまだ先のことかというような実感もあろうかと思えますけども。

ちょっとそれるかもしれませんが、なぜ認知症を上げたかといいますと、認知症を今、私自身が患ってるんだと、そういう自覚を持った方がこういう発言をされました。農業をやれやれといっても、認知症の私、農機具を使えないと。けども自分たちがやらないけんだというようなことを本当に切に言われた方がおられまして、ああ、そういう立場になると本当に深刻になるんだなというふうに思いがありまして、私、今、認知症の予備軍としましても、きちんとその辺

のを把握した上で対応していかなくちゃいけないなと思いましたので、ただいま課長のほうから説明あったことを踏まえて、また町長から答弁あったことも十二分に問題意識を持って対応していきたいと思っています。ありがとうございました。

○議長（川上 富夫君） 認知症対策については、以上で終わりたいと思います。

では、次の質問を行ってください。

三輪議員。（発言する者あり）全て関連するものでございますので、進めてください。お願いいたします。

○議員（7番 三輪 英男君） そうしますと、平成31年度行財政方針から見える課題といえますか、ちょっとおこがましいですけども、若干質問してみたいと思います。

先ほどもございましたけども、集落支援事業の委託先のNPO法人の本年度対応ということで、引き続き予算措置をして業務を遂行していただくということであろうかと思えます。ただ、こうふのたよりは、平成30年3月16日に法人設立登記をされ、間もなく1年になろうとしております。この間、積極的に業務を遂行されていると思えます。行政の後押しもしっかりと受けながらのNPO法人としての活動であったと考えますが、まずは、現在までの業務状況を教えていただきまして、さらなる認識を深めたいと思います。

続きまして、安全・安心・健康に暮らせる町、自己実現ができる町、未来に夢を描ける町の進捗状況であります。例えば物の本によりますと、働くとは、自己犠牲ではなく、自己実現であるというふうにも言われております。また、自立と自己実現を果たせる町、自己実現ができる仕事場、やりがいのある仕事につながるんだというふうな言い方もされております。

3番目、住民目線、当事者意識、挑戦の達成度というふうに掲げてあります。白石町長は2016年12月29日に新年に向けての役場職員に対して、次のようにお話をしております。就任以来、住民目線、当事者意識、挑戦ということを言い続けてきましたが、ことし1年を振り返ってどうだったのかと考えてみてほしいと言われておりました。まさしく覚悟のいる質問ではなかろうかなと思えます。挑戦とは、ある物事の例えとして、人口減と高齢者への挑戦への挑戦であると、ちょっとわかったようなわからないようなことも言われております。

最後に、このたびの行財政方針にはなかったんですが、29年度や30年度にも自助、共助、公助の浸透ぐあいというのがありました。言うまでもありませんが、自助とは住民一人一人が豊かな生活を送るための努力をすること、共助とは近隣の方々、また、町民が豊かな地域づくりに協力、協働すること、公助とは法律や制度に基づく行政機関などが提供するサービスなどと言われております。現状の状況を教えていただければありがたいと思います。

○議長（川上 富夫君） 答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 三輪議員の御質問にお答えします。

平成31年度の行財政方針から見える課題ということで、幾つかいただきました。最初のNPO法人の関係がちょっとわかりにくかったんですけども、議会の委員会のほうでも、10月26日に事務調査ということで現状を確認していただいたところでございます。そのときに、集落総合点検事業へNPO法人が参加したり、あるいは空き家情報バンクの管理であるとか、あるいは先ほどもちょっと申し上げましたけれども、そういった新規の空き家の登録をふやしていく話、さらには移住定住の相談、このあたりも伸びているようでございます。

それと、現在、ネットワーク江府といまして、町内にある、いろいろな活動している団体をつなげていく、そのようなこともNPO法人のほうでなさっておられるようでございます。ここまでは事務調査のほうでお話がありまして、議員の皆さんからも、実際、鹿児島県のほうに議員さんが視察に行かれた例を出されて、そういった事例をまねしてどんどんやればいいよという御指摘もいただいたそうでございますし、NPOのこうふのたよりさんにおかれても、我々町会議員をもっと頼りにしてほしいというありがたいお言葉もいただいたようでございます。

ですので、それを糧にして、NPO法人さん、さらに、例えば移住者の集いとかですね、そういったようなこともなさっておりますし、来年度、町内にあるいろんなイベントを、みんながわかるようにイベントカレンダーのようなものも計画をされております。さらに言いますと、集落に入っていくのに、それぞれ集落のおきてが集落によっていろいろあります。そういったものを集落の教科書みたいな形でつくっていこうということもされようとしております。これからはますます活動を充実させていかれることを私も望んでおりますし、議員の皆様にもぜひ応援のほうをよろしくお願ひしたいと思います。

ところで、次の御質問ですけれども、まずは、安全・安心・健康で暮らせる町と自己実現ができる町、未来に夢が描ける町の進捗状況はどうかというお尋ねでございました。

これは、私が就任以来に唱えておりますが、3000人の楽しい町をつくっていくために、3本柱ということで上げている項目でございます。要は、どうすれば江府町に住む人が楽しく暮らせて、なおかつ、そこに人口は減っていくんだけど、何とか持ち直して生きるためにはどうしたらいいかということを含めた具体的な戦略というか作戦というか、そういったものです。

安全、安心、健康に暮らせないと、やっぱり楽しくありません。この辺は本当に去年からずっと災害とかいろいろありましたけれども、やっぱりそのような対応、あるいは健康づくりの対応、

いろいろとやってきたところでございます。自己実現の話もされました。自己実現ができる町、やっぱり自分で考えて、やりたいと思ったことができる、これ非常に重要なことだと思っております。

きょう、午前中の答弁の中でも申し上げましたけれども、やっぱり若い人が自分、これやりたいって言ったことが、上から頭を抑えつけられるんじゃないかって、おい、やれよと、助けてやるが、言ってやれば、そこでうまいこといけば、また新たな人が江府町に行けば何とかなるんじゃないかということで、どんどん来られるんじゃないかというふうに期待しておりますので、これもどんどん進めていきたいと思っています。

そして、未来に夢が描ける町っていうのは、まさにきょう、午前中に結構言いました教育の話、郷土愛の話。やっぱり子供たちが未来を握っております。この子供たちに十分力を入れて育てていけたらということを考えています。

進捗状況なんですけど、私としてはまだまだ道半ばだと思っております。これからさらに精進していきたいというふうに考えております。

2点目でございます。住民目線、当事者意識、挑戦の達成度、職員に言い続けている言葉についての達成度についてお尋ねがございました。

住民目線について、若干誤解があるなとちょっと感じた出来事もありまして、といたしますのは、住民目線というのは、住民の皆さんのことを何でもかんでも聞くことではないと私は思っておりますが、若干誤解があって、どんなことでも聞かないけんんじゃないかと思っている職員も一部おったようでございます。私は、これは違うということを、今はっきり言っておきます。まずはお話を伺うと、これはしっかり伺うと、門限払いは絶対しちゃいけません、伺います。その後なんですけれども、やはりいろいろと議論したりしないとだめです。といたしますのは、同じ住民の方でも、こちらの方はこうやれって言って、逆のことをまた違う方が言われる場合もありますんで、その辺の調整もありますんで、やたらめったら言われたとおりに動いていけばもう收拾がつかなくなって、何やってるかわからなくなりますので、ちょっとその辺の誤解を解きつつ、ただ、行政目線といたしますか、行政の都合で答えない、前例がないとか予算がないとかで、ぼんと片づけない、しっかり受けとめてから答えを返すというようなことを実践してほしいということでございます。

当事者意識なんですけれども、これ、つい最近、学び舎っていう地元の方が運営しておられる会に、日野ボランティアネットワークの方が講演をされました。そのときに言っておられたんですけども、災害を受けたときに一番困るのは、被災された方が受付に行って、こういうことで困

ってるんですけどって言ったら、それはうちではありません、あっちで言ってくださいって言って振られることだそうです。そうではなくて、やっぱり最初に受けたところがしっかり窓口となって受けとめてつなぐ、当然できないこともあるし、わからないこともありますから、ただ、しっかりつないであげることが必要。やはり町の職員はそれぞれいろんな課に属しておりますので、自分の専門分野はそれぞれ持っております。それが責任分野なんですけども、やはりそこは懐だけは深くしていただいて、自分はできないけど関係してるところにきちんとつなぐということは持ってほしい。町の全体のことをやってるという、そういう意識を持ってほしいということでございます。

3番目の挑戦ですけれども、これは本当に今までやらなかったこと、できなかったこと、いろんな理屈をつけてやらないことが多いんですけども、とにかく向かっていこうということでございます。人によってはトライ・アンド・エラーっていう方もあります。挑戦ほどいかになくても、ちょっとやってみて、だめなら違うやり方でやればいいじゃないかということもありますけども、そういったことです。とにかく何もやらずにおくんじゃなくて、向かってみるということ。これもやはり同じです。まだ道半ばです。これからどんどん浸透させていきたいというふうに思っています。

最後に、自助・共助・公助の浸透ぐあいということでございます。これも協働のまちづくり、住民の皆さんと行政とともに町をつくっていこうという話をしております。なかなか思ったようには進んではおりませんけれども、支え合っていくまちづくりというのをいろいろな会合とか開いて、徐々に広げている最中でございます。これも本当にまだ道半ばでございますので、これからますます努力してまいりますので、温かく見守ってやっていただければと思います。以上でございます。

○議長（川上 富夫君） 再質問を許可します。

三輪議員。

○議員（7番 三輪 英男君） ありがとうございます。懇切丁寧に説明していただきまして。進行形だというふうなところであろうかと思えます。

ただ、私がこのことで、役場職員に対するちょっと不安の気持ちが、以前、一般質問でも上げたんですが、メンタルヘルス的な、そういう形に追い込まれるような職員が1人でもおられないような配慮が実は必要じゃないかなというふうな気持ちです。現状ではおられんという答弁になるかと思えますけれども、いずれにしましても職員も精いっぱいやってるかと思えますので、ぜひそういったところの背景も踏まえて御指導いただければありがたいなと思ってます。

○議長（川上 富夫君） 答弁ありますか。いいですか。

○議員（7番 三輪 英男君） いや。

○議長（川上 富夫君） じゃ、メンタルヘルスについて、答弁ありますか。じゃ、答弁をお願いします。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 確かにメンタルヘルスで悩む職員もおります。私としても、できるだけそれ、減らしたいと思っています。ですので、いろんな原因があるとは思うんです。何かこちらのほうでできることとしては、やはり過度な時間外をしないように注意をすると、これはやっております。管理職会議で個人ごとに時間外の集計を出して、ばらつきといいますか、過度に特定の人に偏ってないかとか、そういったようなチェックは行っています。ただ、やはり物が言いやすい組織をつくる必要があると思っていて、実はきのう、組合との協議というか交渉もあったんですけども、私は言いました。言いなさい、わからないから、上のほうは。とにかく思ったことを言いなさい。そこでごちょごちょ言うような課長がいたら、私のほうに言ってくれというふうには言っておりますので、とにかく言ってほしいんです。こんなことで悩んでるとか、これが問題だとかっていう話をしていただかないと、こちらでは何もできません。ですんで、やっぱり職員の方もこうしたいとか、これがどうだとかいうことを言ってほしい、これは本当に言葉をかりて、訴えたいと思います。以上です。

○議長（川上 富夫君） 答弁を求めます。

三輪議員。

○議員（7番 三輪 英男君） ありがとうございました。

まさしく現状を思い起こさせるような感じで、私自身も受け取りました。確かに口から言い出すことってというのは大変な勇気が要るんだと思うんですね、同じ職員の方でも、やっぱりそれぞれ序列社会でございますから。ただ、そういう気配をやっぱり察知されたら、上司の方たちというのは、やはり今より一つ配慮をしていただければ未然に防げることもあるのかなというふうに思いますので、ぜひともその件は、優秀な職員ばかりおられると思いますので、ぜひ誰彼じゃなしに、全ての職員に対して対応してやってほしいと思います。よろしく願いいたします。以上で終わります。

○議長（川上 富夫君） ありがとうございます。

以上で三輪英男議員の一般質問は終わります。

○議長（川上 富夫君） 続きまして、質問者、森田哲也議員の質問を許可します。

1 番、森田哲也議員。新年度事業促進のための組織連携の強化についてという御質問でございます。

○議員（1 番 森田 哲也君） 議長の発言許可をいただきましたので、お伺いしたいと思います。

まず、個人的なことですが、急な病を患い、多くの皆様に御心配と御迷惑をおかけし、この場をおかりし、お礼とおわびを申し上げます。ありがとうございました。おかげさまで大事に至らず、きょう、この場に立たせていただくことができました。やや言葉に不自由を残しており、お聞きにくいことがあると思いますが、そこは優しい気持ちでお聞きください。

さて、時は新しい時代を迎えようとしていますが、一極集中に伴う地方の人口減少のひずみは、さらに加速を増しています。しかし、国の政策も大きく望めず、みずから工夫を持ってしのぐしかなく、それが現状と言えます。そうした中、本町の新年度の事業計画が提案されました。厳しい環境の中、本町の新しい時代を迎えるに当たって、多々ある問題点に知恵を絞られた内容と感じていますが、具体的な内容については、あすからの委員会で検討伺うとし、きょうは、その新年度事業を確実に促進し、より成果を上げるために幾つかの提案をし、お伺いしたいと思います。

新年度事業の方向が提示されましたが、それを確実に……。

○議長（川上 富夫君） 済みません、立てって無理なら、座ってでもいいですよ。いいですか。

○議員（1 番 森田 哲也君） 勢いでいきます。

○議長（川上 富夫君） いやいや、勢いでも、気をつけてやってください。ゆっくりで結構です。

○議員（1 番 森田 哲也君） 新年度事業の方向が提示されましたが、それを確実に実施していく上で、職員や各種団体との連携は非常に大切であると考えます。現在も集落総合点検を初め、情報収集やその共有化に向け努力しておられると感じていますが、新しい事業展開が求められる今日においては、より高度な情報共有化、情報発信の推進が求められています。新年度事業の推進に向け、さらなる連携の充実が必要と考えますが、町長にお伺いいたします。

○議長（川上 富夫君） 答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） 森田議員の御質問にお答えします。

具体的な内容はまた委員会のほうでということで、大きな話でのお尋ねでございました。職員や各種団体との連携ということで、実は努力はしているんですけども、最近、大きな案件がいっぱい出ています。庁舎の話もそうですし、それから、書類の話も、何とか整理できないかとか、

そんな話もあります。ほかにも、きょうも申し上げましたけども、教育のほうで何かできないかとかいうのを言っております。ですので、従来やっているような業務を右から左に流していくようなことではない時代になってきております。そういう意味で、本当職員も大変だなと思います。

私もそんなに厳しいほうではないとは自分で思っているんですけども、それでもやっぱり新しいことをやろうと思いますと、それなりの負担が職員にもかかってきます。きょうは川端議員のほうにも申し上げましたが、新たにまた事業を加えていくとなると、そこにさらに職員に負担がふえるということで、あえてちょっと消極的な答弁になってしまったんですけども、やはりそれだけ業務がふえてきているっていうことは間違いありません。

そんな中で、どうやってこれから連携を深めていくかというお話でございます。私が思いますのは、私から直接、もう職員に、末端のといいますか、担当に言うのにはもう限界があるというふうに思っております。ですので、やはり各管理職の皆さんに十分私の考えを把握していただいて、わからないところはとにかく聞いてもらって、とことん聞いてもらって、ここがほぼイコールになる状態までやっていただいて、下のほうにおろしていただくというのが理想的な連携方法なのかなというふうに思っております。逆に、先ほど三輪議員のところで申し上げましたけれども、職員の方もやはり身近にいる管理職に、抱えてる問題、わからなければわからないとってぶつけてほしいと思っています。そうすることによって風通しのいい組織ができて、難しい問題も協力して前に進むんじゃないかなというふうに考えております。そういった形で事業を進めていきたいと思っております。以上でございます。

○議長（川上 富夫君） 再質問を許可します。

森田議員。

○議員（1番 森田 哲也君） 今回、特に連携ということで問題提起をさせていただいたことにつきましては、実は理由がありまして、昨年暮れだったと思います。自分のところに友人より電話がありまして、今度、江府町に転入をしたいんだけど、空き家とか、そういったところを相談するには、どこに相談すればいいでしょうかということを役場に電話された人がおられましたそうです。その役場の回答は、どうなったかはもちろんわかりませんが、わかりませんという返事だったと聞きました。それで、自分の友人に、その人が相談をされて、どこに言やあいいたらあということ、たまたまその友人が地元、江府町にそういう話を聞いて困っちゃうなあ人がおいなあだけでも、どこに言えばいいということで、私は先ほど来出てますNPO法人、去年独立して江府町は、この法人にこういった期待をして、こういった仕事をしてもらっちゃうと。そこに言うただけであれば将来のアフターも含めて、いろいろと相談に乗ってもらえるはずだと

いう回答をしました。

そのときに一番思ったのが、町長も先ほどの回答で、自分1人では限度を感じるというお話でしたが、本当に職員まで伝わっていないなど。情報の共有化というお言葉は再々聞きますけども、本当に情報の共有化が役場職員の中でできているのかっていえば、やっぱりこの話を一つ聞くだけでできていないと言わざるを得ないと思います。

まだ言わせていただければ、今、江府町、きょうの31年度の行財政報告の中でも、江府町の大きな課題の一つとして、やっぱり担い手の育成確保というのは、全てのことに関連して重要な課題であるというお話をされていました。まさに担い手の確保が、今後の江府町の将来を決める事業だと私は思います。移住定住者の確保、そのための空き家対策事業は、例えば福祉、産業、教育を初めとする、全ての分野で共通した課題であるはずです。しかも、各関係団体を含めて共有課題であると思っています。言えば、江府町行政に携われる方々は誰もが共通して認識を持っていかなければならない事項だと私は思っていますし、恐らく新人の方の新人研修、職員研修でも、そういった話は学習されているはずと思っています。

そのほかの部署についても、例えばNPO法人はもちろんです、役場の先端を担っていただく現場で働いていただく部署については最もそういったところに敏感になっていただきたいというふうに思います。NPO法人、農業公社、社会福祉協議会、そのほかもろもろ、まだまだあります。やっぱりそういったところの部署までの方々と、町長と職員とそういった部署の職員が同じ共通認識を持って、初めて事業は前進していくんだらうというふうに私は考えております。

町長、お伺いしたいと思います。

○議長（川上 富夫君） 答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） まさにおっしゃるとおりだと思っています。私どもはこの小さな町がどこにも負けない町になろうと思ったら、それができないとだめだと思っています。米子市なんか人口50倍ありますんで、米子市と同じようなことやってたって、たかだか3,000人近いような町が太刀打ちができるわけがありません。うちの強みはやっぱりこの小さなところだと思っています。ですので、この小さなところの、しかも小さな組織がまとまらずして何ができようかと思っているのは本当のところですよ。

ただ、私も苦しいところもございます。なかなかそこに向かっていかないっていうのも考えております。ただ、一つだけ救いがあるとすれば、最初のころよりは徐々に意味がわかってくれている職員もふえてきたんじゃないかなと、私の気持ちの中ではそういうふうに思っておりますの

で、とにかくそれをふやしていくしかないというふうに思っています。それが私の気持ちでございます。

○議長（川上 富夫君） 再質問を許可します。

森田議員。

○議員（1番 森田 哲也君） 次に、情報発信についてお伺いします。先ほど町長が言われましたとおり、やっぱり共通認識というのは徹底していただかないといけないというふうに思います。さらに、その先には情報発信の共有化、共通化が大切な問題であろうというふうに思っています。

今、町長が言われましたように、自分1人の力ではということです。本当にそうだろうというふうに思いました。そのために三役がおられ、職員がおられ、職員の取りまとめる管理職がおられ、そういった方々の先に、現場で機動部隊であります各種団体の方々がおられ、そういったところまでの共通の認識があって、次は町民に対する情報発信がやっぱり統一されていかななくてはいけないというふうに思います。誰もが専門分野を抱えていますので、自分のところはしっかりわかる、それは当然のことですが、ただ、役場全体の問題、先ほど言いましたように、例えば移住定住の問題とか、農業、教育、福祉についても、中身はそんなにわからなくても表面の部分ぐらひは、例えば町民に、これ、どこに相談すればいいって言われたときには、やっぱり自分はよくわからんけど福祉にとか、産業課に、少なくともそういった情報提供ができるような環境をつくっていかなくては、聞いた職員によってばらばらばらばら、ましてやわかりませんって言われたら、町民はただ戸惑うばかりです。そういったところの情報発信まで、やっぱり共通認識という認識の延長のもとに、しっかりと協議されていくべきではないかと私は思っております。

先ほど来話がありますが、もちろん現在も工夫しておられるということは私も認識しております。ただ、最初にも申し上げましたように、江府町はこれから新たな、新しい時代を江府町を築いていく、今現状にあります。言え、過去のやり方では間に合わない、おぼつかない、そういったのがこれから迎える時代であると私は思っています。じゃ、どうするか。今まで習ってきた、勉強してきたスキルでは到底間に合わない。そうする、さらにアップをすることを考えなくてはならない。本当に先ほど来、職員も労働改革という話が出てますが、それとは別に、これは宿命だと思います。その時代に、この職務についているという宿命のもとに、やっぱり皆さん、そこは頑張っていたかなくてはならないかなというふうに思います。さらなるスキルアップのための方策、町長、いかがでしょう。

○議長（川上 富夫君） 答弁求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） おっしゃるとおりですけど、やりたいことはいっぱいありますが、きのうも、実は組合と話をしまして、従来どおりやってるところを少しでも変えようという話をしました。言ってくれと、とにかく、出してくれと。もうそれしかないと思ってます、私は、できることが。でも、そこに応えてくれないことには、もうこれどうしようもないという。きのう、本当に10人ぐらいのメンバーがいたんですけど、中堅どこです、補佐より下で主事より上みたいな方々なんですけど、実は次の次の世代ぐらいに、恐らく江府町を背負っていく人たち、比較的若い人たち。その人たちが従来のやり方に押さえつけられてるんじゃないかなという感じが私は実はしていて、もっと若いんだったら、ああ、町長がそこまで言うんだったらやるわいって言ってもらえると、こっちも弾みがよくて、じゃ、どんどんやろうと、情報も出そうと、このやり方どうだって出せるんだけど、そこで足踏みしてしまうところが私、物すごく歯がゆいところなんです。

やりたいことはいっぱいあります。確実に来年やろうと思っているのは、新規採用職員には、私が直接ちょっと講義をしようかと思っています。そして、この1年間、50回、ことしの新採に送り続けたメールで、メール、それぞれ1回分は1ページなんですけど、その文をテキストにしながら研修をしたいと、新規採用職員に、それは考えてます。以上です。

○議長（川上 富夫君） 再質問を許可します。

森田議員。

○議員（1番 森田 哲也君） ぜひとも実施していただきたいと思いますし、やっぱりそれを受ける側の職員のほうが意味を理解して、納得をしてその話を伺うということが何より大切ではないかなというふうに思います。

私がこの連携という部分で、もう一つ懸念したのは、昨今のマスコミの報道です。児童相談所に行きて、子供が虐待されてやって、教育委員会、学校、子供は一生懸命、これはないしょにする、本気のこと書けて言ったら書いたんですけど、それが親に渡って最悪の事態を招くという事件がずっとこの間、報道されました。そのときには、まず一番は職員の責任感というものはないなど。テレビで言われているのは、聞いてますと、その親の雰囲気が脅迫的で怖かったので、出しちゃいけない、背中に負って守っちゃらないけん子供を、申しわけありませんって親に出した、それと一緒に。ここはもう職員のモラルといいますか、これは理屈でも何でもない。

ただ、特に思ったのは、これは1人だとやっぱり怖いっていうのは人間です。そこで組織連携っていうものが、どういうふうにふだんからできていたのかなと疑問に思わざるを得ません。そう言った上でも、やっぱり1人で戦っていく、仕事を遂行していくっていうことは、先ほど来出

てますけども、1人で仕事を抱えるときと、どうしても精神的なところに負担がかかって病気になるというのは、私も現役の時代から見てきていますので、やっぱりそういったことをなくするためにもチームを組む、チームワークを組むっていうのが本当に大切なことだなと、つくづくそういう事件を、報道を見ながら感じたものです。

そこで、私が思ったのは、関係団体との連携はより慎重的にやるべきだというふうに思います。先般の質問のときに、教育長は学校や保育園の職員とは直接自分が会って、意見を聞きながら連携をとっているというお話でした。でも、うちではないんですけども、よそでそういった実績が出てくるということは、やはりうちも今のやり方で本当に大丈夫なのかなというふうな心配がしてきました。

申しわけありませんが、この間お伺いしました、本当にしっかりとそういった出先機関との連携は十分にできているのでしょうか。さらにはこういった時代になってきたら、もっとスキルアップする連携の仕方っていうのはないのでしょうか。教育長さんにお伺いいたします。

○議長（川上 富夫君） 答弁を求めます。

富田教育長。

○教育長（富田 敦司君） 学校との連携、前回の議会でのお話を受けて、ほかの手段はないだろうかというようなお話であったかというふうに思っております。

前回、保育園の先生方と一対一でいろんな悩みをお聞きしたり、それで、その解決ができることがあれば教育委員会のほうで話をして、それを取り組んでやっていますとか、あるいは保育園の中で話し合いを今まで持ってなかったものを、ざっくばらんに話し合いの場を持って、一人一人の方の思いを聞きながら、悩んでいらっしゃることの解決をお助けするというようなお話をしたようなことを思っております。

チームというお話が先ほど来から出ておりました。学校もですし教育委員会もですが、今のチームで取り組んでいこうと。チームの取り組むことの大切さっていうことを職員には話しておりますし、学校の先生にも話しております。よく仕事ですと、この仕事はこの人が主査、この人が副査っていう形で分掌なり仕事を割り振りしていくんですが、それを3人でやっていきたいと思います。当然主査は1人なんですが、3人で助け合いながらやっていこうと。場合によってはある人が出ていたりすると。実は教育委員会の職員の中でちょっと最近体調を崩して休みがちな職員もいるんですが、そげなときには、そのチームで助け合って仕事を進めて、何とか乗り切って今行ってるというような状況でございます。そういったチームとしての大切さというものを学校の先生方にもお話をしておりますし、事務局職員のほうにもその辺をお話をして、チームで力を合

わせて一つ一つの事業を乗り越えていこうというようなお話をしながら、その成果を高めていきたいというような状況でございます。以上です。

○議長（川上 富夫君） 再質問を許可します。

森田議員。

○議員（1番 森田 哲也君） 何度も言って申し上げありませんが、やっぱりそういったやり方は、さらに努力をやっていただくことが一番職員も安心ができますし、お互いの気持ちが通じる方法だろうというふうに思います。

そこで副町長にお伺いをしますが、以前、白石町長が副町長のために、職員と直接一対一でのミーティングをされました。ああいったことは自分は初めてだったもので、すごく新鮮な思いがありました。世間話もそうですし、今の仕事の内容、進捗ぐあい、それに対する考え、自分の新たな思いはあらへんか、そういうふうなのを一対一で別室で話をさせていただきました。非常に自分も意見が言いやすかったことを覚えていますし、それから、新たな提案も出しやすかったというふうな記憶があります。

先ほどの教育長にも申し上げましたとおり、こういったことは副町長が率先をして、職員との信頼関係を築くという意味も込めて実施されてみたらいかがでしょうかというふうに思います。さらには、町長はトップダウンにはせん、ボトムアップということを言われます。そのボトムアップにしましても、例えば職員が課長に言って、課長が町長、副町長に言うっていうやつが、課長がもう、言い方悪いですが、課長も全部が全部うまく伝えられるかっていったら、そういうのをなかなかそれ難しかった、自分も難しかったです。でも、直接副町長や町長に話す機会があれば、自分のその仕事に対する思いはしっかりと伝えられることができました。やっぱりそういったことがボトムアップのスピード化になるんじゃないかなというふうに思います。

こういった仕事を本当に職員は、臨職、嘱託の方も合わせて100人という感じですが、大変なことです。今、職員評価ということでもやってはおられると思いますが、職員評価とはまた別な意味で、別な機会を設けて、一人一人との対話をつなげていくというようなシステムを構築していただきたいと思いますが、副町長にお伺いします。

○議長（川上 富夫君） 答弁を求めます。

影山副町長。

○副町長（影山 久志君） 失礼いたします。今、職員一人一人との面談を通して、連携していったらどうかという質問だったと思いますが、実は平成29年度、一度は全職員と面談をさせていただきました。先ほどは森田議員言われたように、一対一で個室でやりますので、それぞれ世

間話から、それこそいろんな課題をそれぞれ持っていますんで、そういったこと、あるいは将来的に自分はこういったことになりたいとか、そういったことも含めながらいろいろ話を聞いたところでございます。言われたように、やっぱりそういったお互いを知っていることは非常に大切なことだと思いますんで、それも続けていくべきかなというふうに思います。

30年度につきましては、全員ではございませんけど、主幹以上、前でいえば係長以上は対象にさせていただいております。それとは別という言い方もされましたが、人事評価、この中でも、私の場合ですと管理職が主になりますけど、年に2回、ないし3回の面談を通じて、そういった評価、そういう評価の中でいろんな意見交換をしながら進めてるところでございますので、こういったことは当然やっていかなければならないと思いますし、できる限りは対応してもらいたいなと思っております。以上でございます。

○議長（川上 富夫君） 再質問を許可します。

森田議員。

○議員（1番 森田 哲也君） ぜひとも実行していきただいて、何よりその中で大切にしていきたいのは、職員と管理職の皆さんとの信頼関係がそこで築かれるということが、何より大切なことだろうというふうに思っています。

そういった連携を深める、また別のところでは、例えば別組織の団体、今のNPOとか、それから農業公社とか、そういったところでも私が思ったのは、アナログ、昔ながらのやり方ですが、稟議、合議をして持ってきて、役場、本庁舎の中で課長とか担当者とかに稟議、様子を報告しながら、課長も担当者も忙しくて、題名とか、一言、二言、それから、その職員との目と目の会話ってというのはできるんだろうと思う。そういった昔ながらの顔と顔を突き合わせての職員との連携、特に離れた場所におられる職員の皆さんとは、私は効果があるんじゃないかというふうに思っています。

それから、各種団体で分かれたところの人っていうのは、例えば人数が少ない、恐らく2人とか1人とか3人とか、そういった人たちは、その少ない職場っていうのは、それはそれなりに、やっぱり休暇を思うようにとれないとか、そういったことでメンタル面の予防になるんじゃないかなと。常にそういった連携がとれていれば休みなんかもとりやすくなると。きょうは、ここはなんだったら、本庁舎から、例えば農業公社とかそういったところに派遣をしていくとか、そういった人事交流、難しいのかもしれませんが、そういったことが10回のうち1回でも2回でもできることによって、やっぱりきずなはしっかりと結んでいかれるんじゃないかなというふうに思っています。

最後になりますが、やっぱり新しい時代を迎えようと、今、江府町が迎えようとしているのは間違いないです。この31年度の行財政方針の中にも新しいメニューがたくさんあります。しかも、私的には、今問題とする部分に、本当にきちんと新しい解決事業、システムを取り組んでおられるなというふうに思っています。そうすると、何がっていうことになる、次はもう、今までの、さっきも言ったやり方ではだめだ、新しい考え方、新しいシステムをつくっていかないとおぼつかない。今、少子高齢化、過疎化率はどんどんスピードアップしていきます。そのスピードアップに合わせてこちらが対応していこうと思えば、しっかりとした、100%確実にやるまで考えてやるようでは、私は間に合わないんじゃないかなと。言い方は悪いんですが、ある程度めどが立ったら見切り発車でやっていって、やりながら修正、改善をやっていきて、そして、今の時代のスピードに合わせていくやり方、これは真剣に考えていくべきだというふうに思います。

長々と言いました。結局は、舌が回らず十分にお聞き取り願えてなかったのかもしれませんが、そういった思いであります。最後に、町長の御答弁をお伺いして、私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（川上 富夫君） 答弁を求めます。

白石町長。

○町長（白石 祐治君） まさに私の思いを代弁していただいた質問だと思っております。なかなか直接には言いにくいですが、変わっていただくと、その答えることによって、私は言いたいことを全て言っていただいたという気がしております。

なかなか思いは持っても、それぞれの受けとめ方も違いますし、能力も違うでしょうし、その思いの強さも違うでしょうし、ばらばらです。ですので、一律にやろうと思うとやっぱり無理があるのかなという気がしています。ですので、徐々にでも、その辺も太くしていって、動ける人をふやしていきたいと思っております。そのためには、やはり管理職大事なんです、これ。結局、私が幾ら直接担当と話をしようとしても、その担当が上の人の目を気にして、これ、町長とやりとりしていると都合が悪いと思われる方もあるようですので、本当はどんどん生の意見出していきたいんですけど、どうも何かストップがかかっているような感じも受けられるので、何とかしたいんですけども、やはりその辺の昔ながらのやり方が変えられないのは、やっぱり時間がかかるかなという気がしております。いずれにしても、やり続けていくしかないというのが、私の率直な気持ちでございます。どうもありがとうございます。

○議長（川上 富夫君） 以上で森田議員の質問は終わります。

これで、本日の一般質問は終了いたします。

○議長（川上 富夫君） 本日の議事日程は全部終了いたしました。

これをもって散会とします。御苦労さまでした。

午後 2 時 4 4 分散会
